

クロスロード

11



特集

協力隊後の生き方
～“進学”でステップアップ～

派遣国の横顔
～ベナン～



現在の派遣国数

70 カ国



JICA海外協力隊 派遣現況

(2020年9月末現在、単位：人)

※新型コロナウイルスの感染拡大により、
派遣中隊員は全員一時帰国中です。

■ アフリカ地域

国名	一般	シニア
ウガンダ	13	1
エチオピア	4	
ガーナ	26	
ガボン	1	1
カメルーン	9	
ケニア	9	2
ザンビア	17	2
ジブチ	5	
ジンバブエ	7	
セネガル	15	1
タンザニア	20	1
ナミビア	7	
ベナン	7	
ボツワナ	7	
マダガスカル	11	
マラウイ	8	
南アフリカ共和国	1	1
モザンビーク	15	1
ルワンダ	14	

■ アジア地域

国名	一般	シニア
インド	12	
インドネシア	3	1
ウズベキスタン	17	1
カンボジア	10	2
キルギス	9	
タイ	10	1
中華人民共和国	5	
ネパール	17	3
東ティモール	12	
フィリピン	12	1
ブータン	4	1
ベトナム	14	4
マレーシア	5	3
ミャンマー	3	
モルディブ	6	
モンゴル	12	
ラオス	14	

■ 大洋州地域

国名	一般	シニア
キリバス	1	
サモア	4	
ソロモン	9	
トンガ	7	
バヌアツ	9	
バプアニューギニア	15	1
パラオ	3	
フィジー	8	1
マーシャル	2	1
ミクロネシア	7	2

■ 欧州地域

国名	一般	シニア
セルビア	2	1

■ 中東地域

国名	一般	シニア
エジプト	2	
チュニジア	3	
モロッコ	4	1
ヨルダン	7	1

■ 中南米地域

国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア
アルゼンチン		10	3	4
エクアドル	11			
エルサルバドル	9			
グアテマラ	10			
コスタリカ	14	3		
コロンビア	5			
ジャマイカ	8	1		
セントビンセント	3			
セントルシア	2			
ドミニカ共和国	18		3	
ニカラグア	1			
パナマ	3			
パラグアイ	7		2	1
ブラジル			25	4
ペリウズ	7			
ペルー	18	2		
ボリビア	15			
ホンジュラス	8			
メキシコ	2	5		

■ 合計

	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	585 (269/316)	56 (45/11)	33 (11/22)	9 (5/4)	683 (330/353)
累計 (男性/女性)	45,776 (24,302/21,474)	6,553 (5,298/1,255)	1,542 (597/945)	547 (252/295)	54,418 (30,449/23,969)

一般＝青年海外協力隊/海外協力隊
シニア＝シニア海外協力隊
日系一般＝日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊
日系シニア＝日系社会シニア海外協力隊

クロスロード

2020 NOV
Contents

■職種別索引 掲載ページ

コミュニティ開発	6、12、36
コンピュータ技術	4
防災・災害対策	20
食用作物・稲作栽培	14
野菜栽培	26
農業機械	21
獣医・衛生	26
観光	18
青少年活動	10
環境教育	30
PCインストラクター	32
小学校教育	8
手工芸	24
看護師	4
理学療法士	16

■国別索引 掲載ページ

ウガンダ	21
ガーナ	32
カメルーン	30
カンボジア	4
キルギス	24
コスタリカ	16
コロンビア	36
ジャマイカ	20
タンザニア	28
パラグアイ	12
ベナン	6、8、36
ペルー	18
ボツワナ	4
モンゴル	10
ラオス	35
ルワンダ	14

■出身都道府県別索引 掲載ページ

北海道	10
埼玉県	20、24
千葉県	12
東京都	8、32
新潟県	18
神奈川県	21
愛知県	14、16
大阪府	4
広島県	30
山口県	29
佐賀県	6

【凡例】

JICA海外協力隊の方々（経験者を含む）については、次のように表記しています。

国際協子さん（ウガンダ・青少年活動・2019年度3次隊）

氏名	派遣国	職種	隊次
----	-----	----	----

JICA海外協力隊の種類（呼称）は、「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。特に明記されていない場合は「青年海外協力隊」となります。

本誌は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元に関する有益な情報を提供し、対象者に配布しています。

ロゴタイプデザイン：(株) AND

レイアウト：(株) AND

印刷・製本：弘報印刷(株)

4

JICA Volunteers' Reports

- ▶一時帰国中の隊員と隊員OB・OGが一丸となり、『派遣国料理のレシピ本』を作成（日本）
- ▶日本からも手洗い啓発活動を！「手洗いダンス動画」をカンボジアに発信（カンボジア）

派遣国の横顔

～ベナン～

6

農林水産

野中香里さん（コミュニティ開発・2016年度2次隊）

8

教育

清水 緑さん（小学校教育・2017年度1次隊）

特集

協力隊後の生き方

～“進学”でステップアップ～

10

福祉分野

佐藤 歩さん（モンゴル・青少年活動・2013年度3次隊）

12

教育分野

熊澤夢開さん（パラグアイ・コミュニティ開発・2014年度4次隊）

14

農林水産分野

加藤裕太さん（ルワンダ・食用作物・稲作栽培・2014年度3次隊）

16

保健・医療分野

渡邊 司さん（コスタリカ・理学療法士・2013年度2次隊）

18

“失敗”から学ぶ

志賀容子さん（ペルー・観光・2017年度3次隊）

20

希少職種図鑑

- ▶防災・災害対策 松葉 亮さん（ジャマイカ・2017年度1次隊）
- ▶農業機械 木下鉄兵さん（ウガンダ・2017年度3次隊）

22

JICA海外協力隊的プチテクガイド

改善の方法／貯金の啓発

24

JICA Volunteers' Before ▶ After ～人生を変えた2年間～

防災関連団体の事務局長 小谷枝薫さん（キルギス・手工芸・2014年度2次隊）

26

帰国後よもやま話

農林水産分野隊員篇

28

Pick Up OB・OG会

- ▶ワスワヒリの会
- ▶青年海外協力隊山口県OB会

30

先輩隊員のシューカツ記

株式会社日本デジコム 社員 平田 萌さん（カメルーン・環境教育・2017年度1次隊）

32

JOCV SPORTS NEWS

34

JICA海外協力隊のつぶやき

お題：「お風呂」

35

INFORMATION

36

隊員めし

鶏肉とジャガイモのスープ コロンビアの「アヒアコ」



掲載する料理のレシピを確認するために作成した料理の数々（一部）。レシピ本に関する最新情報は青年海外協力隊大阪府OB・OG会のFacebookページをご覧ください
▶https://www.facebook.com/osakaov/



出版の流れ	
(4月28日) 企画浮上	SNS上で「隊員が日本で派遣国の料理レシピを書いたら」という会話を始める。
(5月10日) 会議①	「派遣国の料理の本」企画のたたき台を作成し、OV会と会議を実施。
(5月13日) 会議②	JICA関西と会議。
(5月20日) 依頼①	JICA関西から企画調査員（ボランティア事業）経由で関西圏の隊員にアプローチ。同時に個人的なつながりからも声掛け開始。
(5月27日) 情報発信	全国の隊員にリーチするため「PARTNER」でも発信。
(5月29日) 試作開始	レシピが届き始めたので試作開始。
(6月8日) 依頼②	OVにも寄稿依頼を開始。
(8月1日) 募集終了	記事の募集を終了。
(8月31日) 試作完了	レシピ66品の試作完了。
(9月1日) デザイン開始	本業がデザインのOVが作業を開始。
(9月20日) タイトル最終決定	OV会運営陣で試行錯誤して決定。
(10月末) 確認完了	デザインと最終確認完了（予定）。
(11月末) 出版	Amazonの電子書籍として出版（予定）。

一時帰国中の隊員と隊員OB・OGが一丸となり、『派遣国料理のレシピ本』を作成

文 = 佐藤省吾さん（ポツワナ・コンピュータ技術・2015年度1次隊／青年海外協力隊大阪府OB・OG会運営委員）

Japan

「隊員が日本でつくれる派遣国の料理の本を出したら面白いかも？」
「デザイン製本は私がやるわ。電子本にしたら印刷コストもかからんしな」
「ほな、やってみようか」
SNS上のこんな会話が始まった。本企画。新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大した4月、JICA海外協力隊は一斉に一時帰国というニュースが流れた頃でした。青年海外協力隊大阪府OB・OG会（以下、OV会）では一時帰国となった隊員を応援する活動を思案していた時期で、この企画は「形に残せて、最新の派遣国の情報を広く一般に広められ、リモートで作業が完結できる活動」として5月中旬に始動しました。

まず大変だったのが寄稿者集めです。OV会はその性質上、現役隊員とのつながりが薄いです。そのためJICA関西に相談し、現役隊員への連絡をしてもらいました。それでもなかなか思うように集まらず、個人的なOVのつながりを駆使して現役隊員に声をかけました。さらに派遣人数の少ない国の現役隊員や、現役隊員とOVとのコラボもよいと思いOVにも寄稿を募りました。結果、派遣実績国の7割程度66カ国の原稿をいただくことができました。
次に、この企画は電子書籍として広く一般の人に読まれます。レシピや内容は責任を持って公開したいので、OV会の運営陣を中心にレシピ通りに試作し、必要であれば手を入れていくという作業を行いました。この作業に3カ月の期間を要しました。この記事を書いている9月下旬の段階でタイトルが決まり、11月下旬の販売を目指して鋭意作業中です。
ちょっとした会話から始まったこの企画も、現役隊員とOVで実現できることに、改めて隊員とのつながりのすごさを感じるばかりです。協力いただいた皆様には感謝しありません。コロナ禍で帰国して任地が恋しい隊員と、帰国して何年も経つけれどまだまだ任地が恋しいOVの思いが詰まった深い内容になっています。なお、売り上げは国連の関係団体への寄付を予定しています！

* OV=Old Volunteersの略で、隊員OB・OGここでは表す。



『くらしで初めて知った (ど)ローカルごはん - 日本で作れる世界のレシピとお話 -』

編集・発行: 青年海外協力隊大阪府OB・OG会、2020年11月／予定
定価: 500円(税別/予定)

●本の紹介: 派遣国で暮らし、任地の人々と「同じ釜のめし」を食べたJICA海外協力隊。彼らが派遣国で食べた料理を日本で再現するレシピ集。派遣国にまつわる小話と共に66カ国のレシピを収録。隊員が実際に住んだからこそ知っている派遣国の超ローカル料理とエピソードが満載です。

●青年海外協力隊大阪府OB・OG会: JICA海外協力隊を経験した大阪府に住む人たちが中心となって活動する団体。大阪の会ではあるが、地域に縛られず全世界からの「こういうことをやってみたい」という企画と一緒に実現できる会を目指している。やってみたい企画がある人は下記連絡先に今すぐ連絡を！

【連絡先】osakaov@gmail.com

動画配信の流れ	
(5月13日) 企画	保健医療系隊員とJICAカンボジア事務所の企画調査員（ボランティア事業）で企画会議。
(5月15日) 結成	「JOCV×WASH」チーム結成。
(5月20日) 曲目決定	曲目が決定。全体像を企画・構成。
(6月10日) 使用許可	歌詞を変更することで、楽曲の使用許可をもらう。
(6月19日～) 撮影開始	各隊員がダンス動画を撮影開始。
(6月22日～) 動画編集	動画編集作業開始。
(7月8日) 動画完成	動画完成。広報担当の確認作業。
(7月15日) 音源検討	楽曲使用不可となり、新たな音源作成か音源スタジオサービスの使用検討。
(7月20日) 共同制作依頼	別の音楽制作会社より共同制作の依頼が入る。
(7月21日) 会議	著作権、音楽性、内容の確認。
(8月15日) 再編集	音源が完成し、動画再編集。
(8月19日) 動画完成	YouTubeに動画を投稿。
(8月20日) 掲載	同国事務所のFacebookに掲載。



「JOCV×WASH」チームのメンバーでオンライン会議をしている様子

日本からも手洗い啓発活動を！ 「手洗いダンス動画」をカンボジアに発信

文 = 近藤幸恵さん（カンボジア・看護師・2018年度2次隊）

Cambodia
Japan

私の派遣国での活動は主に5S活動と感染管理活動でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一時帰国するまでの1～2カ月は、院内で手洗い啓発活動を行い、教育分野の隊員の協力で小学校でも出前授業をさせてもらいました。
日本に帰国してから任地とのかかわりをどうしたらよいかわからずにいたところ、同国の看護師隊員やJICAカンボジア事務所との企画調査員（ボランティア事業）と話す中で、手洗い啓発活動を日本から継続してできないかと思いました。動画編集に協力してもらう同期隊員も交えて「JOCV×WASH」チームを結成し、公衆衛生改善支援であるWASH活動の一環として、カンボジアの人々に向けて「手洗いダンス動画」を発信することにしました。ダンスは隊員や事務所スタッフに踊ってもらい、音源はカンボジアの音楽制作会社から提供してもらえたので、手洗いの正しい知識を気軽に得ることができ、動画となりました。

当初はカンボジアで知名度のある曲を使用する予定で使用許可をもらっていましたが、音楽制作会社との認識の違いから最終的にその楽曲が使えないことになってしまいました。ダンス動画も完成していたのでメンバーと悩んでいたところ、あるカンボジアの音楽制作会社から「ソーシャルワークだったらぜひ一緒にやらせてほしい」と依頼がありました。私たちはその会社の音楽制作者とオンライン会議をして、お互いの希望や内容のすり合わせを行いました。結果的にその会社に音楽制作を依頼し、カンボジアの人々に馴染むような音楽ができ、現地の人と協力して動画を完成させることができました。

動画はYouTubeにアップし、同国事務所のFacebookに掲載しました。隊員間で掲載記事をシェアし、私の配属先のスタッフもすぐにシェアしてくれました（9月17日現在、シェア158件、閲覧件数1万2000件）。私のカウンターパートも「この動画を使うことで、よりよい手洗いの教育ができるよ」と喜んでくれました。協力し合った隊員や事務所のスタッフに感謝しつつ、この動画が少しでも多くのカンボジアの人々に伝わればと思います。

現在はこのWASH活動を継続し、カンボジアの清潔な水へのアクセスの現状を考慮しながら、水衛生の観点から手洗衛生の啓発動画の作成に取り組んでいます。このような活動を通して、少しでも多くのカンボジアの人々によい手洗衛生を意識してもらえることを願っています。

*1 5S…整理、整頓、清掃、清潔、しつけの最初のSをとったもの。 *2 WASH…Water, Sanitation, and Hygieneの頭文字で、水と衛生に関連する事業のこと。

派遣国の横顔

JICA海外協力隊の派遣国ごとに、それぞれの代表的な職種・分野の活動例を、任地の文化や様子と共に紹介します。



Field 1 農林水産



のなかおり
野中香里さん
(コミュニティ開発・2016年度2次隊)

PROFILE

1987年生まれ、佐賀県出身。大学卒業後、石油卸売会社社員、東日本大震災の被災地自治体の任期付職員を経て、2016年9月に青年海外協力隊員としてベナンに赴任。18年9月に帰国。現在は在ギニア日本国大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を担当する外部委員。

活動概要

農業畜産水産省水産局海洋漁業部(リトル県コトヌー市)に配属され、零細漁港の運営に関する主に以下の活動に従事。
●水揚げ量の統計を出す業務の支援
●仲買人などを対象とした衛生啓発

水揚げ量をまとめる作業を手伝いつつ、配属先の業務改善に尽力

零細漁港を運営する政府の出先機関に配属された野中さん。日々の水揚げ量をデータベースに入力する作業を手伝いつつ、配属先の業務改善に貢献できることを探っていた。

ギニア湾に面しつつ、内陸国のニジェールやブルキナファソを含む4カ国と接するベナンは、貨物船で運ばれてきた商品を隣国に再輸出する中継貿易が主要産業の一つとなっている。貨物船が発着する同国唯一の商業港を擁するのは、首都のウエメ県ポルトノボ市の南西約25キロに位置するリトル県コトヌー市。同国の経済の中心地であるだけでなく、政府の庁舎や各国大使館、国際空港などが集まる事実上の首都と言える大都市だ。

多く利用している。漁業者の組合員は約1000人、仲買人の組合員は約800人という規模だ。1日に平均で約50隻の漁船が水揚げし、年間の水揚げ量は約3000トン。水揚げされる魚は、カツオやサバ、トビウオ、スズキなど約50種類にのぼる。仲買人は漁港近くのホテルやレストラン、市場の小売店などを主な卸先とするほか、漁港内にある市場で住民への小売りもしている。そうした漁港を運営する農業畜産水産省水産局の海洋漁業部が、野中さんの配属先だ。同局の庁舎はコトヌー市の市街地にあるが、海洋漁業部の事務所は漁港の中にある。

海洋漁業部の主な業務の一つは「氷の製造・販売」。仲買人はそれぞれ、買い付けた魚の鮮度を保つため、氷を入れて魚を冷やす大型の保冷容器を持つ。同部が製造・販売するのは、そこに入れる砕いた氷である。同部のもう一つの主な業務は、水揚げされた魚を計量し、水揚げ量の統計を出すことだ。

①と②は海洋漁業部が雇う2人のスタッフが専従で担当。一方、③と④は野中さんの着任当時、統計担当の職員(以下、Aさん)が一人でごさななければならぬ状態だった。しかし、Aさんはほかの部の仕事も兼務しており、手が回っていなかった。そうしたなかでAさんは、着任したばかりの野中さんに対し、③を手伝ってほしいと依頼。野中さんはマンパワーとしての活動に時間を取られることへの抵抗も感じたが、漁港の状況を把握する手段になると思い、引き受けることにした。

①水揚げされた魚を計量する。
②決められたフォーマットのシートに、「日付」「漁船登録番号」「漁業者名」「魚種」「水揚げ量」などを記入する。
③シートに記入された情報を、海洋漁業部のパソコンに格納してある専用のデータベースファイルに入力する。
④月ごとに各魚種の水揚げ量を集計し、その結果を水産局に提出する。

野中さんは日々、③の作業を手伝いつつ、水揚げ量の統計を出す業務にある課題を探っていた。そうして任期中、いくつかの改善を実現することができた。その一つは、②のシートの管理方法に関するものだ。野中さんの着任

データ入力の新アプリが誕生

当時、海洋漁業部の事務所の棚には、統計を出すことを始めた2010年以降のすべての記入済みシートが山積み状態で保管されていた。事務所の整理整頓を進めたいと考えた野中さんは、Aさんに「過去のもものは破棄しませんか?」と提案。するとAさんは、「シートはすべて保存するというルールがある」と言った後、「実は、一部のシートの束は、古いものだけとまだデータベースへの入力済んでいない分なのです」と打ち明けてくれた。人手が足りないため、④の集計は未処理のシートを残した不正確なものとなっている月もあったのだ。

野中さんの動きかけが一つのきっかけとなり、スマートフォンからインターネット経由で海洋漁業部のデータベースに入力できるアプリが水産局の予算でつくられたのは、野中さんの任期が後半に入ってからだ。それにより、同局が常時数人ずつ受け入れているインターンにも、⑤の作業を分担してもらえなくなった。そうして海洋漁業部の負担が減ったことで、Aさんはそれまでできなかった事業に取り組みやすくなった。その一つは、小・中学校の児童・生徒の社会科見学を受け入れること。漁港の水揚げやセリの様子を見てもらうことは、児童・生徒の視野が広がるだけでなく、漁港にとっても、彼らが大人になつたときに漁港で氷を買ったり、漁港の魚を仲買人から買ったりをもらえる可能性が高まる「営業活動」でもあった。



①漁港のセリの会場で地域の小学校の社会科見学に対応するAさん(左端) ②仕入れた魚を漁港内の市場で小売りする仲買人たち ③衛生啓発を目的に、仲買人が持つ保冷容器の中の魚の温度を同僚(左)と共に確認する野中さん ④漁港で行われるセリの様子 ⑤漁港の岸壁に集まる小型漁船。船籍を示す国旗はさまざま

派遣国の横顔

任地ひとロメロ (コトヌー)



ベナン最大の都市コトヌーの街中はバイクで溢れかえるが、下水処理施設が整備されておらず、頻繁に道路が冠水する



右:現地の人々は種類が豊富なプリント布「パーニユ」を買ひ、写真のようなクチュリエ(テーラー)に服を仕立ててもらう
左:イニヤム(ヤムイモ)をふかしてついた「イニヤムビレ」(左)と、付け合わせの魚のスープ。現地でポピュラーな料理の1つだ



しみず みどり
清水 緑さん
(小学校教育・2017年度1次隊)

PROFILE

1994年生まれ、東京都出身。大学で・高等学校の英語科教員免許状を取得した後、2017年7月に青年海外協力隊員としてベナンに赴任。19年7月に帰国。

活動概要

- グランポボ視学官事務所(モノ県グランポボ市)に配属され、主に以下の活動に従事。
- 現地教員との授業実践(算数と図工)
- 先輩隊員たちが作成した図工の教員向け指導書の改訂(他隊員との協働)
- 児童が図工授業でつくった作品の展示会の開催

小学校を巡回し、算数授業と図工授業の質向上を支援

市レベルの教育行政機関である視学官事務所に配属され、小学校の算数や図工の授業の質向上支援に取り組んだ清水さん。カギとなったのは、現地教員の意欲をいかに引き出すかという点だった。

清水さんが配属されたグランポボ視学官事務所は、ベナン幼児・初等教育省の地方出身機関。モノ県グランポボ市内にある小学校80校と幼稚園24園を管轄する教育行政機関だ。求められていた役割は、実技教科の図工・体育・音楽や算数の授業の質向上に向けた支援をすることだった。

算数授業の支援で直面した境界

同国の公立小学校は6年制。授業料は無料であるため、ほぼすべての子どもが学齢に達すると小学校に入学する。問題は中途退学者の多さだ。6年生で卒業試験があるほか、1〜5年生でも進級試験がある。各学年の留年率は平均で10パーセント程度。勉強についていけない子がそれだけ多いうえ、家の商売の手伝いをしなければならぬ子もいるといった事情から、各学年の退学率は15パーセント程度にのぼる。

そうしたなか、清水さんが任期前半に活動のメインとしたのは、1〜3年生の算数授業の支援だ。算数を選んだのは、家庭の事情で止むを得ず中途退学をせざるを得なかったり、中学校に進学できなかったりする子に、仕事

で不自由をしないで済むくらいの算数の力を身に付けさせてあげるのが、小学校の最低限の役割だと考えたからである。一方、1〜3年生を対象に選んだのは、算数はどこかでつまずくとその先に進めない「積み上げ式」の教科であるため、下の学年の授業を支援するほうが意義が大きいと考えたからだ。

算数授業を支援するために巡回したのは5つの小学校。現地教員が行う授業に参加させてもらい、留年生を中心に机間指導を行った。同時に、現地教員の指導法の改善点も探った。同国の公立小学校には「学区制」がなく、入学する学校を選ぶことができる。人気を左右するのは卒業試験の合格率だ。そのため、卒業試験で配点が高い算数の授業はいずれの学校でも重視されており、教員たちの意欲も高い。しかし、彼らに定着している授業のやり方には問題があると感じられた。例えば、足し算や引き算の筆算で「位を揃えて数字を書く」ということを徹底させていないため、計算間違えが多くなってしまふ。卒業試験も計算間違えによる不正解が多かった。

清水さんが算数授業の支援をしたクラスの教員のなかに、授業への意欲が際立って高い教員がいた。2年生のクラスを受け持ってい

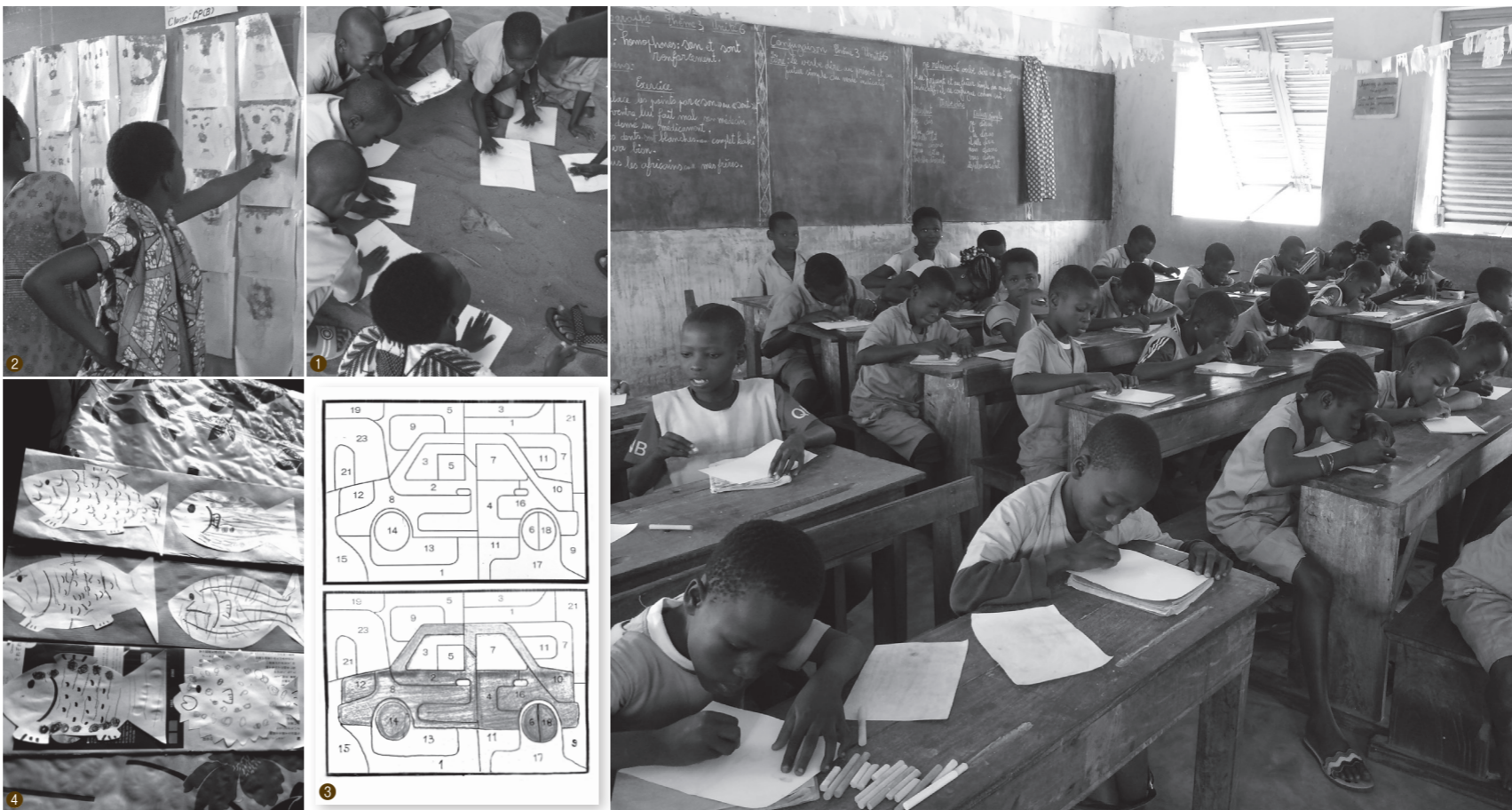
んらかの具体物の絵となるようにし、かつ、具体物の絵を構成するピースに振る数字は、「2の段の掛け算の答え」などしておく。「2の段の掛け算の答えが振ってあるピースを塗りつぶしなさい」といった課題を与え、仕込んでおいた具体物の絵が浮かび上がったかどうかを確認させるものである。

こうした教材を、それまで図工に関心を示すことになかった教員たちに紹介していったところ、すぐさまほかの教員たちにも評判が広がり、「私の図工の授業に来て、この教材を使った授業をやってみてほしい」というリクエストが多く寄せられるようになった。そうして任期の後半は、リクエストを寄せてくれたすべての教員の授業に参加し、共に図工授業を行っていった。

同国では、清水さんの前任者を含む先輩隊員たちが、現地で調達可能な材料でできる図工授業のアクティビティの方法をまとめた

『CHIEBUKURO』という教員用指導書(以下、「指導書」)を作成していた。清水さんの任期の半ばには、清水さんが他の隊員たちと共に製作を進めてきた「指導書」の改訂版が完成。「算数」の要素を混ぜ込んだ教材による授業で教員たちの図工授業に対する関心を引き出した後は、「指導書」の改訂版に掲載しているアクティビティを行う授業を彼らと共に行うようになった。

彼らとの授業実践では、毎回、授業の数日前にその学校を訪問。共に授業を行う教員に次の授業のプランを示したうえで、材料の調達方法について彼らに知恵を絞ってもらうなどして、授業に対する積極性を引き出すよう努めた。すると次第に、図工授業の実践に力を入れ始める教員が増加。「指導書」にあるアクティビティを行う図工授業を、清水さんがいないときに単独で行う教員も現れてきたのだ



①キャッサバの粉を水で溶いてつくった糊で砂絵を制作する児童たち ②図工作品の展示会で砂絵の作品を観賞する児童 ③算数の要素を取り入れた図工教材。「2の段の掛け算の答え」が書いてあるピースを塗りつぶしていくと、自動車の絵が浮かび上がる ④創造性を養うために自由なイメージで描かせた魚の絵

清水さんが現地教員と共に行った図工授業で「はじき絵(パティック)」の制作に取り組む児童たち。石けんで絵を描いた上からチョークで色を塗り、チョークをはじく石けんの性質で絵を浮かび上がらせるアクティビティだ

派遣国の横顔

教員の図工授業への意欲が向上

清水さんがメインの活動を図工授業の支援にシフトしたのは、任期の半ばだ。同国の公立小学校のカリキュラムでは、「芸術教育」という名称の授業がいずれの学年も週に3コマ程

た三十代後半の男性だ。「数の概念の理解が進むよう、具体物を使って説明する」「体罰を行わない」など、ほかの教員との明白な違いがあった。清水さんは、彼に教員のモデルとなってもらえるよう技術支援をしたと思うが、その目論見は頓挫する。「足し算や引き算の筆算は位を揃えて数字を書かせる」など日本式の教授法を勧めてみたところ、「あなたの主張は理解できる。しかし、算数の授業のやり方には国の方針があり、これまでずっとそれに従ってきた。その方針を外れることは、一教員の立場ではできない」と言われてしまったのだ。

度設けられており、そのなかで図工・音楽・家庭科の授業を行うことになっている。「芸術教育」は進級試験や卒業試験の出題範囲にもなっているが、図工に関しては「手本として示された単純な絵を写す」といった易しい問題が出されるのが常であり、日々の授業で試験に向けた指導に力を入れる必要がない。そのため、教員たちの図工授業に対する意欲は低く、おざなりにされていた。算数やフランス語など重視されている教科の授業が長引くと、次の「芸術教育」のコマを使ってしまったり、自分が指導できるアクティビティばかりを行ったりする教員が大半だったのだ。

図工授業に対する教員たちの意欲を引き出すために効果的だったのは、彼らが重視する「算数」の要素を混ぜ込んだ教材を提案することだった。「掛け算を学ぶジクソーパズル式教材」がその一例だ。紙にジクソーパズルのようなピース分けを描き、各ピースに数字を振る。いくつかのピースが組み合わさると、な

任地ひとロメモ 〈グランポボ〉



美しい砂浜が広がり、多くの外国人観光客が訪れるベナン随一のリゾート地。写真の衣類は住民が広げた洗濯物



右:ベナンで栽培が盛んなパイナップルを売る店
左:死者を祀るブドゥー教の祭り



さとう あゆみ
佐藤 歩さん

- ▶モンゴル
青少年活動
2013年度3次隊
▶1979年生まれ、北海道出身

特集 協力隊後の生き方 ～“進学”でステップアップ～

協力隊経験で自分自身と社会について新たな気づきを得たことで、「知識を深めたい分野が出てきた」「転身したい異業種が出てきた」というケースも少なくないだろう。本特集では、「進学」によってそれらを実現してきた方々に、自身の体験談を伺った。



専門学校の通信科に進学し、 ソーシャルワーカーの道へ

「いずれは『専門』と呼べるものを持ちたい」とのビジョンを抱いて協力隊に参加した佐藤さん。派遣中に米国など他国のソーシャルワーカーと出会った経験により興味が高まったことから、帰国後、専門学校でソーシャルワーカーとしての専門性を身につけた。

— 帰国後、専門学校の通信科に入学した動機をお教えてください。
社会人になってまもない頃から、何か「専門」と呼べるものを持ちたいと思うようになり、働きながら日本語教師養成講座を受講したのですが、実際に日本語教師として働いてみると、生計を立てるのが容易ではない職業だと感じました。そこで視野に入れたのが、ソーシャルワーカーの専門性を認定する「社会福祉士」や「精神保健福祉士」などの国家資格を取ることです。ソーシャルワーカーというのは、障害者など日常生活に支障がある方々へ助言や指導などを行う職種であり、大学で心理学を勉強した経験や、病院の精神科でソーシャルワーカーに近い仕事に携わった経験が生かされると考えました。海外にも興味があったので、先に協力隊に参加したので

が、任期中、ボランティアとしてモンゴルの活動していた米国とオーストラリアのソーシャルワーカーに、両国では修士号が必要とされる重要な専門職であるといった話を聞き、ソーシャルワーカーの仕事に対する興味がさらに高まりました。そうして帰国の3カ月前に、まずは社会福祉士の国家資格を取ることを決意しました。
— 進学先はどのように決めたのでしょうか。
職業訓練を受ける費用の一部を補助してもらえる「専門実践教育訓練制度」というハローワークの制度を利用したのですが、私が受講した学校法人日本医療大学の生涯学習センターは、制度が適用される学校の1つでした。入学は帰国の4カ月後です。「就労移行支援」の事業所を運営する今の勤務先にはその3カ月後に就職し、働

きながら学校の勉強を進めました。採用面接の際、社会福祉士の勉強しており、学校の実習で仕事を休まなければならない旨を伝え、了承していただきました。社会福祉士や精神保健福祉士は、国家資格を持つ人だけにその業務への従事が認められる医師や弁護士のような「業務独占資格」ではありませんので、国家資格を取得していてもその業務に携わることができません。私は就職した当初からソーシャルワーカーに近い仕事を担当していたのですが、「ソーシャルワーカー」という肩書を使い始めたのは、社会福祉士の国家資格を取ってからです。
— 仕事と勉強を両立させる苦勞はありましたか。
通信科の履修はレポートの提出が中心なのですが、仕事が終わった後、自習室へ行って2、3時間

佐藤さんのキャリアパス



大学生
文学部で心理学を専攻。

病院職員
病院の精神科で、患者の社会復帰に向けたリハビリプログラムの支援に従事（1年間）。

日本語教師
日本語教師養成講座を修了した後、日本語学校に教員として勤務。

民間企業社員
事務とカスタマーサービスに従事。

協力隊員
2014年1月に青年海外協力隊員としてモンゴルに赴任。2016年1月に帰国。

専門学校生
2016年5月から18カ月間、学校法人日本医療大学の生涯学習センター社会福祉士通信科に、2019年5月から9カ月間、同センターの精神保健福祉士通信科に在籍。

ソーシャルワーカー
2016年8月から特定非営利活動法人コミュニティ案創に勤務。

佐藤さんの進学概要

- 進学先
学校法人日本医療大学 生涯学習センター
※社会福祉士通信科(A)、精神保健福祉士通信科(B)
- 在学期間
A: 2016年5月から18カ月間
B: 2019年5月から9カ月間
- 入学金・授業料
A: 約33万円、B: 約40万円
- 学習/研究の内容
A: 社会福祉学、B: 精神保健福祉学



所属先のコミュニティ案創は、北海道札幌市で就労移行支援の事業所の運営などを行う団体。写真は、同団体が運営する事業所で精神障害や発達障害がある人への就職に向けた訓練を行う佐藤さん



小・中・高一貫のメルゲド統合学校(ウブルハンガイ県アルバイヘル)に配属され、日本語授業や課外活動などを担当した。写真は、日本語授業の中で児童に折り紙を教える佐藤さん

勉強してから帰宅するというような生活でしたので、やはり大変でした。社会福祉士の国家資格を取得した後、同じ学校で精神保健福祉士の通信科を受講し、その国家資格も取ることができたのですが、社会福祉士は国家資格を取るのに予定より1年長かかってしまいました。
— 国家資格を取得できるだけの勉強をしたことで、より質の高い仕事ができるようになりましたでしょうか。
私が現在携わっているのは、主に精神障害や発達障害がある人の就職を支援する仕事で、具体的に就職の方向性を決めるための相談を受けること、就職に向けた技能の訓練を行うこと、就職活動や就職後の問題をフォローすることなどです。そうした仕事をするうえで、学校で勉強した「障害」「福祉制度」「相談を受ける際の面接技術」などの知識は、より適切な支援をするために役立っていると思います。しかし、支援の対象はひとりひとり違いがある「人間」ですから、「機械」のように「このボタンを押せば、必ずこれが出てくる」というわけにはいきません。そのため、「面接技術」などは、常に磨き続けていかなければならないと感じています。
— 仕事に関する今後の抱負をお聞かせください。

「今晩はラーメンが食べたい」といったささやかなものであれ、人間はいつも何かしらの「希望」を持っているものだと思います。精神障害や発達障害がある人も、その点に変わりはないのですが、彼らのなかには、自分が持つ希望に気づけなかったり、実現可能な希望とそうでないものを整理できなかったりする人もいらっしゃいます。そうした方々の「実現可能な希望」を明確にするためのお手伝いが、ソーシャルワーカーとしてもっとも重要な役目だと感じています。

私がこれまでに対応した方の中には、勉強は得意だけれども、発達障害があるために就職を諦めかけていた方がいらっしゃいました。当初は、単純な事務作業など障害者向けの仕事に応募しては不合格になるということを繰り返していたのですが、あるとき本人が「プログラミングのような仕事に興味がある」と「希望」を口にしたのをきっかけに支援の方針を変えたところ、適性が判明し、通常の正社員として活躍するまでにになりました。このように人の人生を左右するような局面にかかわることができる点で、ソーシャルワーカーはとてもやりがいのある仕事だと感じているので、今後もこの道を極めるための努力を続けていきたいと考えています。

*3 就労移行支援…障害者総合支援法にもとづいて障害や難病がある人を対象に行われる、就職のために必要な知識や能力を高めるための支援。

*1 社会福祉士…日常生活に支障がある人の福祉に関する相談に応じ、助言や指導などを行う人の国家資格。
*2 精神保健福祉士…精神障害者の社会生活に関する相談に応じ、助言や指導などを行う人の国家資格。



タジキスタン事務所では、障害児が教育を受ける機会を増やす事業や、障害者への職業訓練などを実施している。写真は、障害児の保護者たちを対象に開いた、障害児の通常学校への通学に関する説明会の様子。左が熊澤さん、右の2人は現地スタッフ



配属先は、アルト・バナナ県にある日系移住地の小学校。環境や衛生に関する啓発、学校運営の支援などに取り組んだ。写真は、環境教育の一環として、現地教員(左)と共に廃油を使った石けんのつくり方を教える熊澤さん

熊澤さんのキャリアパス



大学生 文学部卒。中学・高等学校教員(国語)の免許状を取得。

民間企業社員 不動産会社に勤務(1年間)。

高校教員 東京都の高校とタイの日本人学校高等部に勤務(それぞれ1年間と2年間)。

団体職員 (公財)日本ユニセフ協会の学校事業部に勤務(約半年間)。

協力隊員 2015年3月に青年海外協力隊員としてパラグアイに赴任。2017年2月に帰国。

大学院生 2017年3月から2018年12月までAPSに参加。

国際NGO職員 UNICEF東京事務所でのインターンを経て、2019年10月、国際NGOの「特定非営利活動法人難民を助ける会」に入職し、タジキスタン事務所の駐在員に着任。

case 2

教育分野



くまざわ むかい
熊澤夢開さん

▶パラグアイ
コミュニティ開発
2014年度4次隊
▶1987年生まれ、千葉県出身



平和大学の授業は実践力を養うプログラムが多かった。平和教育学の授業で行われた国際協力の現場のロールプレイ(写真)もその1つ

熊澤さんの進学概要

■進学先

国連平和大学大学院
アテネオ・デ・マニラ大学大学院
※いずれも修士課程。両学の修士号を合わせて取得できるプログラム「Asian Peacebuilders Scholarship」を利用。

■在学期間

2017年3月～2018年12月

■入学金・授業料

履修にかかる費用は(公財)日本財団が全額支給

■学習/研究の内容

平和教育学と国際政治学(卒業プロジェクトのテーマは「ミャンマー・カチン州におけるユースリーダーの育成」)

国連平和大学大学院等に進学し、国際NGOの職員に

いずれ教育分野の国際協力の仕事に就きたいとの思いを持って協力隊に参加した熊澤さん。帰国後、国際協力の仕事に就くために有益な修士号を取ることを目的に大学院に進学し、それをステップに国際NGOの現地駐在員の道へと進んだ。

— 帰国後に修士号を取得したプログラム「Asian Peacebuilders Scholarship」(以下、APS)の概要をお教えください。

— コスタリカにある国連平和大学(以下、平和大学)の修士課程と、フィリピンにあるアテネオ・デ・マニラ大学(以下、アテネオ大学)の修士課程を、20カ月ほどの間にまとめて履修し、単位互換制度によって両学の修士号を取得できるプログラムです。国際的に活躍する日本とアジアの人材育成を目的に、日本財団が授業料や旅費、生活費などを負担しているもので、毎年30人の学生の募集があり、私の学年は合格者の約半数が日本人、残りがアジアの8カ国からの学生でした。アテネオ大学の専攻は「国際政治学」に決められていますが、平和大学では「国際平和学」「国際法」「環境開発」とい

う3つの研究科のなかから選択することができると。私は国際平和学研究科の「平和教育学」という専攻を選択しました。

— 効率よく2つの修士号を取得できる点以外に、APSの特長だと感じたことは？

— 修士論文の執筆に代えて「卒業プロジェクト」の実践がAPSの修了の要件となっている点です。数人の学生でチームを組み、社会開発のプロジェクトをアジアのいずれかのフィールドで行うもので、私たちのチームはユースリーダーを育てるための研修をミャンマーで実施しました。そうしたアウトプットの機会があることで、それまで学んできたことを咀嚼し直すことや、それを修了後の仕事にどうつなげるかを具体的にイメージすることができました。

私は協力隊の試験を受ける前から「教育分野の国際協力の仕事にしたい」との思いを持っていました。それに必要な専門性を身につける場にAPSがあることも知っていたのですが、実践を経験してから進学したほうが理論の学びが深くなると考え、先に協力隊に参加することにしました。

— 入試の準備の進め方は？

— 帰国してすぐに入学するために、帰国の半年ほど前に出願しなければならなかったため、受験の準備は任期の半ばごろから始めました。TOEFLの基準点をクリアするための勉強が中心です。口頭試問を受けたのも派遣中で、ネット環境が悪かったため、電話で実施していただきました。

— APSの入試では何が重視されていると感じましたか。

— 口頭試問は平和大学の教授による英語でのインタビューだったのですが、振り返ってみると、私の場合は協力隊経験について掘り下げた説明を求められるような質問が中心だった気がします。入学後の実際の授業では、「貧困」や「紛争」といったテーマについて、学生たちがそれぞれの経験を題材として持ち寄りながら議論することがよくありました。入試ではおそらく、授業での議論に参加できるだけの経験があるか、それをわかりやすく伝えるだけの英語力や論理性を備えているかなどが見られていたのではないかと思います。

— 修士号取得後の進路はどのよう

に進学により専門性や修士号を得たことで、外務省が行うJPO派遣制度などを利用して国際機関で働く、あるいは開発コンサルティング会社やNGOに就職するなど、教育分野の国際協力の仕事に携わる道の選択は広がったと思うのですが、最終的に選んだのが、「難民を助ける会」という国際NGOのタジキスタン事務所駐在員という現在のポストでした。当

会は、通常学校に学習支援室を設けるなどして障害児が教育を受けられる機会を増やす事業を同国で進めています。私が大学院で学んだ平和教育学には、教育を受ける機会を誰もが阻害されないようにする方法に関する研究も含まれてお

り、それを学んだ経験が生かせるポストだという点で、就職先に選んだ決め手でした。

— 実際、大学院での学びが今の仕事にさまざまな形で結び付いています。例えば、平和教育学の授業は「研修会を組み立てる」といった実技が多かったのですが、そこで身に付けた技術は、現地の教員を対象とした障害に関する研修を行う際などに活用できています。

— 仕事に関する今後の抱負をお聞かせください。

— 私が派遣前に働いていたタイの日本人学校の生徒は、現地の人々に比べて裕福な家庭の子どもたちで、学校に通えることが当たり前だと感じている子も多かったです。その一方で、タイの街には学校に通えないストリートチルドレンたちがいました。「すべての子どもが教育を受けられる環境をつくるのが、大人の役目ではないだろうか。それは、お腹が空いてい

る人にパンをあげるのと同じように、絶対的な善ではないだろうか。タイで抱いたそんな課題意識が、教育分野の国際協力の仕事

に対するモチベーションのベースとなっています。それに共感する日本の若者がたくさん出てきてほしいという思いもあるので、国際協力の経験を積んだ後は日本の教育現場に戻り、私の経験を伝えていければと考えています。

* JPO派遣制度…「JPO」は「Junior Professional Officer」の略。各国政府の費用負担で国際機関が若手人材を受け入れ、経験を積む機会を提供する制度。



自然応用科学(株)が製造する堆肥。加藤さんは現在、農業者への堆肥の販売のほか、同社のグループ企業が行う特定技能外国人(改正出入国管理法上で新設された「特定技能」の在留資格を持つ外国人)の就労支援事業にも携わっている



東部県ガツボ郡の郡庁に配属され、ネリカの栽培普及を目的に農業者や農業学校の生徒への技術指導などに取り組んだ。写真は、配属先が管轄するエリアの農業者たちを相手に土壌の改良方法について説明する加藤さん

加藤さんのキャリアパス

民間企業社員

大学院生

協力隊員

農業指導員

農業研修生

大学生

2017年4月から2019年3月まで、帯広畜産大学大学院畜産学研究所の植物生産科学コース博士前期課程に在籍。

2019年4月、農業生産資材の製造・販売などを行う自然応用科学株式会社に入社。

2015年1月に青年海外協力隊員としてルワンダに赴任。2017年1月に帰国。

農業法人や社会福祉法人などで農業指導に従事(約1年半)。

就農希望の若者を対象とする研修機関で稲作を学ぶ(1年間)。

農学部で主に農産物の生産技術について学ぶ。

農林水産分野



かとうゆうた
加藤裕太さん

▶ルワンダ
食用作物・稲作栽培
2014年度3次隊
▶1988年生まれ、愛知県出身



加藤さんが研究のなかで育てたアズキ。実がつく高さがさまざまな個体間で交配させたもので、子世代の実がどの高さにつくかを確認し、実がつく高さを左右する遺伝子を突き止めていった

加藤さんの進学概要

■進学先

帯広畜産大学大学院畜産学研究所
※植物生産科学コース博士前期課程(修士課程と同じ)

■在学期間

2017年4月～2019年3月

■入学金・授業料

約140万円

■学習/研究の内容

資源環境農学(修了論文のテーマは「アズキの上胚軸の伸長に関する量的形質遺伝子座(QTL)領域の同定と候補遺伝子の探索」)

帯広畜産大学大学院に進学し、 農業分野の専門性を深化

稲作に関する知識を持って協力隊に参加し、その技術指導に取り組んだ加藤さん。稲作の「ハウツー」は教えられるものの、「農作物の内部の仕組み」への理解不足により、農家にわかりやすい説明ができなかったことから、帰国後、それを学ぶために大学院に進学した。

—帰国後に大学院へ進学した動機をお教えください。

私は協力隊時代、ネリカ栽培の普及に取り組みました。肥料の撒き方や水の打ち方など、栽培の「ハウツー」を農業者に指導して

いくうちに収量も増え、それなりに評価してもらえたのですが、彼らから「これまで我々が栽培してきたイネとどこが違うのか?」と聞かれたときに、満足のいく回答ができませんでした。大学時代や農業研修生時代に得た知識で「乾燥に強い」など性質の特長は伝えることはできるけれども、「異なるイネの交配によって出来た新たな遺伝子が、乾燥に強いという性質を発現させている」など、「内部の仕組み」を合わせて説明することはできなかつたのです。私は農業分野の国際協力の仕事に就きたいという希望があったので、「内

部の仕組み」をもっとよく知り、途上国の方々が納得するような説明ができるようにならなければと考え、その手段として大学院に進学することにしました。

—進学先の選択理由は?

進学先については、協力隊の任期が1年を過ぎたあたりからインターネットで情報収集を始めました。その際、前述の課題意識から「遺伝子」をキーワードの一つとしました。もう一つのキーワードとしたのは「マメ」です。途上国ではマメが重要なタンパク源であり、栽培も消費も盛んです。そのため、高収量かつ高品質のマメの品種開発ができるだけの専門知識があれば、農業分野の国際協力の仕事をするうえで武器になると考えました。この2つのキーワードに合致するような研究をされていたのが、実際に私の指導教官とな

— にお教えください。

アズキの実が地面からどれくらいの高さにつくかを左右する遺伝子を特定する研究です。アズキは地表に近い位置に実がつくため、収穫機で収穫する際に多くの取りこぼしが出てしまうという問題があります。私の研究は、取りこぼしが出ないような高い位置に実をつけるアズキの開発の出发点となるものです。

— 修士課程での学びは、その後の就職や仕事にどのように結びついていますか。

農業分野の国際協力を携われる就職先を「PARTNER^{*}」で探し、見つけたのが、現在の勤務先である自然応用科学株式会社の人情報でした。国内で農業生産資材の製造・販売などを行う会社ですが、カンボジアで農業技術を指導する事業も行っており、私はその現場管理を担当する人材として採用されました。おそらく、協力隊での海外経験と大学院で得た専門性の両方が評価材料になったのだらうと思います。

入社後、残念ながらカンボジアの事業はコロナ禍でストップしてしまい、現在は国内の事業に携わっています。担当している業務の一つは、農業者への堆肥の販売です。この業務では、農業者が抱えている問題を聞き出し、その解決策を提案することが重要な営業活

動となるのですが、そこでは大学院で学んだことがとても役に立っています。例えば、「農作物が病害に罹る」という問題が発生した際、どのようなメカニズムで病害が発生した可能性が高いかを推定したうえで、その発生が避けられるような遺伝的性質を持つ品種の導入を勧めることができるので、専門知識が豊かな農業者の方からも信頼を得ることができていると感じています。以前なら、「この農業が有効です」など、マニュアル的に覚えている「対症療法」を伝えることしかできなかったらうと思います。

— 仕事に関する今後の抱負をお聞かせください。

「食」というのは、人間的な暮らしを享受するための大前提だと思っています。おなかを満たされ、安心感やゆとり、笑顔が生まれて初めて、家族や友人と共に過ごす時間などを楽しむことができるからです。農業はそうした「食」を支えるものである点が、農業の仕事に対する私のモチベーションの源です。今後も、農業の発展のために貢献できるように、さらに学びを続けていき、いずれは、「食」に困窮する人がいる途上国の現状に対して有効なアプローチを見つけ出すような仕事に携わるチャンスを得ることができればうれしですね。

*2 PARTNER…国際協力のキャリアに関する情報を提供するJICAのウェブサイト。

*1 ネリカ…NERICA ([new rice for Africa]の略)。高収量や耐乾燥性、耐病性を兼ね備えたイネの品種。



現在は理学療法学科の専任教員として、主に1年生の「運動学」と2年生の「義肢装具学」の授業を担当。国家試験対策の担当教員も務めている。写真は、膝関節の動きについて学生に実技指導する渡邊さん（右）



コトブス地方保健センター（ブタレナス県サンビート市）に派遣され、理学療法の実施、自主練習の促進などに取り組んだ。写真は、自主練習するよう勧めた体操の方法を患者に指導する渡邊さん。患者が手にしているのは、渡邊さんが提供した腰痛予防の自主練習のマニュアル

専門学校教員

理学療法士

大学院生

協力隊員

理学療法士

専修学校生

渡邊さんのキャリアパス

2017年3月、学校法人医療創生大学が運営する理学療法士と作業療法士の専門学校「千葉・柏リハビリテーション学院」（千葉県柏市）に専任教員として就職。

大学院で研究を進めるかたわら、2015年11月から総合病院に理学療法士として勤務。

2015年4月から2017年3月まで、新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究所に在籍。協力隊活動と並行して研究を進める。

2013年9月に青年海外協力隊員としてコスタリカに赴任。2015年9月に帰国。

理学療法士としてリハビリ病院に勤務（3年間）。

理学療法学科を卒業。

渡邊さんの進学概要

■進学先

新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究所
※修士課程（協力隊活動中でのフィールドワークで単位が与えられる「青年海外協力隊等プログラム」を利用）

■在学期間

2015年4月～2017年3月

■入学金・授業料

約220万円

■学習／研究の内容

保健学（修士論文のテーマは「慢性腰痛患者に対するスペイン語版自主練習メニューを用いた運動指導の効果 ―コスタリカの貧困地方における考察―」）



入学は帰国の約半年前で、帰国後は大学に近い病院で理学療法士として働きながら研究を続けた。写真は、帰国後に大学院の学生として学会発表をする渡邊さん

case 4

保健・医療分野



わたなべ つかさ
渡邊 司 さん

▶コスタリカ
理学療法士
2013年度2次隊
▶1988年生まれ、愛知県出身

新潟医療福祉大学大学院に進学し、 リハビリ専門学校の教員に

2年間のブランクを埋めるため、帰国後は大学院に進学して専門性を高めよう。そう考えて赴任した渡邊さんが選んだのは、協力隊活動の一部に単位が与えられる大学院に、任期の途中で進学する道だ。

――修士号を取得された新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究所の「青年海外協力隊等プログラム」（以下、「プログラム」）について、概要をお教えください。

協力隊の選考試験に合格して派遣を待っている間や、協力隊員として派遣されている間に入学する、修士課程の特別なプログラムです。協力隊活動でのフィールドワークが修士課程の演習とみなされて単位が与えられるなど、協力隊員にとって修士号の取得が容易になっている点が最大の特長です。最短で帰国の1年後に修了することができます。

――進学した動機は？

「プログラム」を知って関心を持ったのは、協力隊の選考試験に合格してから派遣前訓練に入るまでの間です。日本の医療技術は日進月歩ですから、日本の医療現場を

2年間離れることへの不安にかられるなか、ブランクを埋める方法だと考えたのが、帰国後に大学院へ進学し、専門性を高めるというものでした。そうして大学院の情報インターネットで集めたところ、「プログラム」の存在を知りました。派遣前に入学することも検討したのですが、協力隊活動を通して自分の興味のある分野を見極めてから、何を研究するかを決めたほうが良いだろうと考え、派遣前の入学はやめることにしました。そうして赴任したコスタリカでは、理学療法士が少ないため、当初はマンパワーとして患者の治療にあたるだけの日々が続きました。

「このまま自分の活動が終わってしまっても良いのだろうか」という不安が募ったのですが、派遣中に学術的なフィールドワークを行えば、コスタリカのリハビリ分

野の将来にとって何か有益なものを残せるかもしれないと考え、「プログラム」への出願を決めました。オンラインで口頭試問を受け、帰国の半年前に入学しました。

――協力隊活動でのどのようなフィールドワークで大学院の単位が認められたのでしょうか。

私が協力隊時代に取り組んだ活動の一つは、それぞれに合った自主練習のマニュアルを患者たちに提供し、自宅での実践を促すことです。任地は理学療法士が少なく、すべての患者が医療機関で十分なリハビリを受けることが不可能であること、任地の医療機関にリハビリを受けに来る人の大半は腰痛患者であり、腰痛を治す練習は自力でできるものが多いことなどから、この活動に取り組みました。自主練習のマニュアル作成には、さまざまな練習の患者向けマニュアル

アルをまとめた自作のデータベースを日本の理学療法士の方から提供していただき、スペイン語に訳して活用しました。そのため、現地の理学療法士も個別の患者に向けたマニュアルを容易に作成できる状況になりました。大学院の単位が認められたのは、自主練習を促進するこうした活動の効果を測るために行ったモニタリングとその分析に対してです。

統計的に有意なデータを得るためにはどれくらい患者を対象とすべきかなど、学術的な調査のノウハウは大学院の担当教官に遠隔で指導していただきながら進めました。それにより、研究の基礎を身につけることができただけでなく、自分の協力隊活動の意義を客観的に評価することも叶いました。そういう意味で、「プログラム」の利用は私にとってとても良い選択だったと思います。

――修了後の進路として、リハビリ職の人材を育てる教員の道を選ばれた動機は？

途上国のリハビリ分野では、専門性を持つ人材の育成をいかに充実させていくかが課題です。それを支援する仕事にしたいという希望を私は持っていました。そのため、日本のリハビリ職の教育についてもっとよく知る必要があると考えたのが、教員の道を選んだ最大の理

由です。現在の勤務先である千葉・柏リハビリテーション学院はリハビリの専門学校ですが、教員の求人情報はインターネットで見つけました。

――学校の教員は、修士号を持っていることが必須とされていないのですが、実際に働いてみると、大学院で学んだことで、できることの幅が広がっていると感じます。例えば、勉強の意欲が高い学生に、「文献の調べ方」など、私が大学院で学んだことを伝えると、なかにはまとめたレポートを学会で発表できるまでになる学生も出てきています。リハビリの「ハウツー」を教えるだけでなく、文献にあたって治療法の科学的根拠を探究する姿勢を身につけさせることは、修士号を取得している私の役目だと考えています。

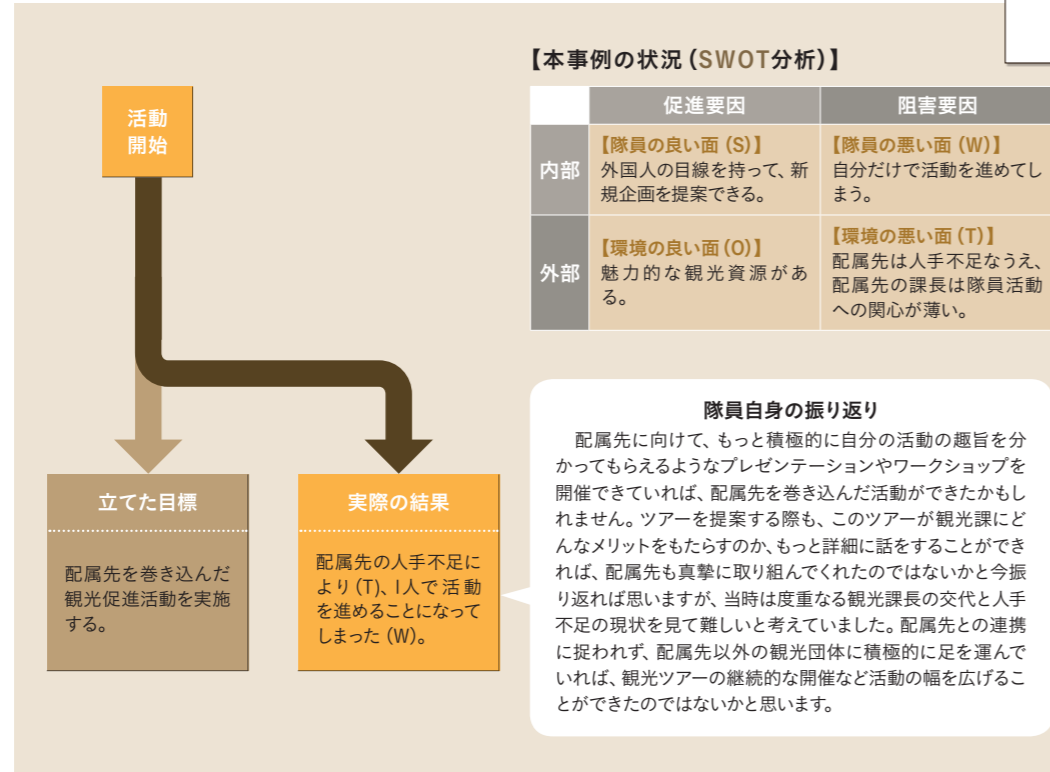
――仕事に関する今後の抱負をお聞かせください。

「義肢装具学」は横文字の専門用語が多く、苦手とする学生が多いのですが、私が協力隊時代に義肢装具を手づくりしたことを授業で話したところ、義肢装具に興味を持つ学生が増えました。そうしたことから、協力隊経験者だからこそ果たせる教員としての役割は大きいと感じているので、今後も当面は教員としての研さんを積み、学生に還元していきたいと考えています。

“失敗”から 学ぶ #186



事例整理



他隊員の分析

「焦り」は禁物！ 「知る」ことから始めよう

私も赴任当初、配属先に新しい授業の提案を受け入れてもらえず、自分一人で活動を始めてしまったことがあります。しかし、それでは何も残らないと思い、焦る気持ちを抑え、まずは同僚とのコミュニケーションを重視するようにしました。そのおかげで、双方のやりたいことを理解し合え、配属先の協力を得て授業ができました。周りを巻き込み協働するには、ヒアリングと自分をアピールすることが大事です。企画提案時に時間をかけてでも話し合いの機会を見つけ、会話を重視することができていたら、また少し違う結果が得られたのではないかと思います。

文＝協力隊経験者

- アジア・観光・2016年度派遣
- 取り組んだ活動

職業訓練校のホテルコースにて、教師への技術指導と授業改善を中心に活動。また、生徒に対しホテル業に必須である英語の授業を行う。その他、市内のホテルや大学でも技術指導やホスピタリティについての理解を深める活動を行った。

悩みに捉われず、誇りを持って

中南米の観光業では主に欧米からの観光客を誘致しているため、日本人の自分だからできる活動を見つけるのは難しいですね。「結局目の前のことをやるしかない」という葛藤は私にもありました。配属先で自分ができること、やりたいことを共有する機会をつくれば改善したかもしれません。しかし、配属先に実施した活動を反対されなかったのであれば、そこまで後悔する必要はないと思います。観光業はいつでもどこで芽が出るかわかりません。いつか、志賀さんがかかわった現地の人が地域観光に大きく貢献したり、観光客に感動を与えたりする日が来るかもしれません。

文＝協力隊経験者

- 中南米・観光・2016年度派遣
- 取り組んだ活動

観光開発公社にて、ヘリテージツーリズムや地域主体の観光促進に従事。地域素材を利用したお土産品の製作と販売を支援するワークショップの開催、町の歴史を紹介する案内看板の設置アドバイス、地域住民の啓発クイズ大会の支援などを行った。

配属先の人と連携が少ないまま 活動を進めてしまった

文＝志賀容子さん（ペルー・観光・2017年度3次隊）

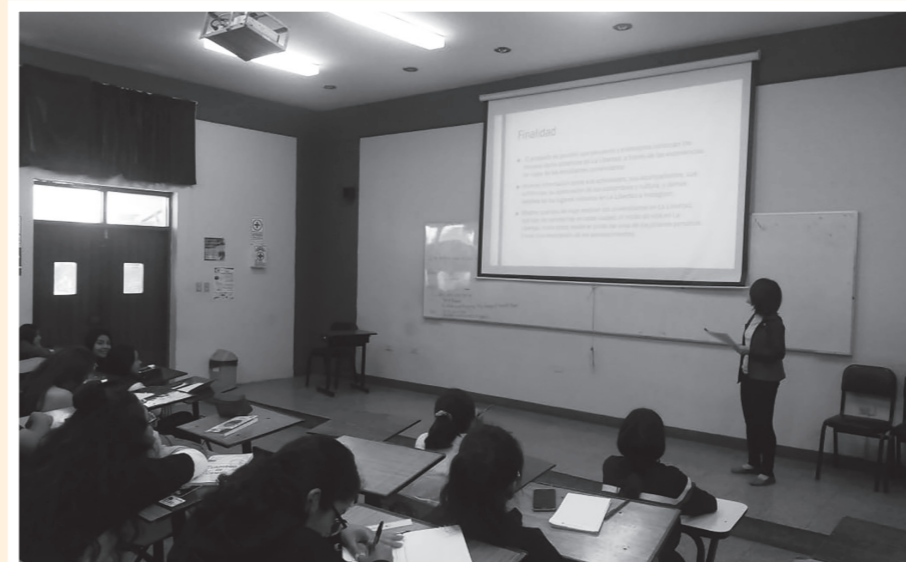
私はラ・リベルター州の州政府通商観光局観光課に配属された。同州のトルヒーヨ市はペルー第3の都市と言われ、魅力的な世界遺産がある観光地だ。観光課は、主に観光客の統計に関する集計、ホテルの営業認定などを定期的に行い、州内の観光サービス業に関するワークショップの開催なども行っている。私への要請内容は同市への観光客誘致だったので、活動内容を観光課の課長と話し合ったが、明確な指示はなく自由に活動してほしいとのことだった。観光課長は入れ替わりが激しく、隊員の活動への関心も高くなかった。

活動当初、私は観光課の同僚を巻き込んで、マンパワーでない同市を中心とした広報活動をしたと考えていた。観光課は、観光団体などと連携したイベントのPRをこくたまに行うものの観光促進に関する活動は少ないように感じたためだ。しかし、観光課は慢性的な人手不足で、常に隊員の活動に協力したり同行したりすることは難しい状況だった。1年目は語学力の不足により、積極的に観光促進に関する活動を行うことはできなかつたが、配属先の業務補助を行い

ながら、市内の主要観光スポットの訪問などをして状況把握に努めた。さらに34の旅行代理店を訪問し、観光に関するアンケート調査を実施した。

2年目にはその調査の内容を踏まえ、観光促進のための企画の1つとして、外国人観光客向けの観光ツアーとして日本人を対象にしたツアーを企画。観光客誘致という要請内容にも沿っているため、同僚と一緒に取り組もうと観光課長に相談したが「大学の実習生をサポートしている」との回答。相談できる同僚はいたが、彼女も忙しく一緒に活動することは困難だった。その後、企画に協力してくれる業者の開拓、旅行代理店との調整や参加者の募集などを1人でを行い、最後まで観光課と連携した活動にはできなかった。

この企画以外にも、外国人観光客誘致を目的に、地元大学と協働したSNSのアカウント開設、観光サービス従事者向けの日本語教育なども実施し、終盤の活動自体は順調だった。しかし、配属先の人とかかわりが少ないまま活動している自分に「このままで良いのだろうか」という後悔が残り、その気持ちを最後まで拭い去ることができなかった。



トルヒーヨ国立大学の学生に対して、SNSの「Instagram」にラ・リベルター州の観光に関する記事を投稿することのメリットを説明する志賀さん



PROFILE

1984年生まれ、新潟県出身。2005年、県立新潟女子短期大学英文学科を卒業後、東日本旅客鉄道株式会社新潟社に入社。18年1月、青年海外協力隊員としてペルーに赴任。20年1月、帰国。現在は、休職していた会社に復職し、乗務員として働いている。

活動概要

- ラ・リベルター州トルヒーヨ市を中心に観光客誘致のため、以下の活動を行った。
- 外国人観光客誘致のための記事の作成
- やInstagram開設による広報活動
- 観光サービス事業者向けのプレゼンテーションやワークショップの実施
- 観光サービス事業者向けの日本語教育の強化

派遣人数は少ないもの
いぶし銀の活躍をする
職種の事例をピックアップ

#C141

農業機械

派遣中 ▶ 1人

累計 ▶ 54人

分類 ▶ 農林水産

活動例 ▶ 職業訓練校、農業高校などでの
授業・実習の実施 など

類似職種 ▶ 自動車整備、工作機械

※人数は、2020年9月30日現在。



任地周辺の整備士にエンジン修理の説明を行う木下さん

PROFILE

1994年生まれ、神奈川県出身。日本大学生物資源科学部在学中の2016年8月、青年海外協力隊員(短期)としてウガンダに赴任。17年1月、帰国。同年3月、大学を卒業後、日本大学大学院に入学。18年1月、協力隊員として再びウガンダに赴任。20年1月、帰国。現在、大学院に復学し、在学中。ウガンダの農業機械化について研究を行っている。

活動概要

国立作物資源研究所に派遣され、JICAの技術協力プロジェクト「コメ振興プロジェクト(PRIDeプロジェクト)」に所属する農業機械整備士・任地周辺の機械整備士の能力強化を目指す。以下の活動を行う。

- 農業機械整備
- 出張修理制度の導入



話
きのしたてつべい
木下鉄兵さん
(ウガンダ・2017年度3次隊)

#A204

防災・災害対策

派遣中 ▶ 5人

累計 ▶ 78人

分類 ▶ 計画行政

活動例 ▶ 行政機関での防災管理体制づく
りの支援や防災教育 など

類似職種 ▶ 行政サービス

※人数は、2020年9月30日現在。



学校での防災教育をする松葉さん。座学だけでなく生徒参加型にすることを意識した授業を行い、授業後には机の下に潜る練習など避難訓練も行った

PROFILE

1985年生まれ、埼玉県出身。2008年、立教大学経済学部経営学科を卒業後、食品会社に入社。主に経理、物流などバックオフィスに従事。東日本大震災をきっかけに防災に携わる職に就きたいと考え、13年市役所に転職。防災部署での勤務を経て、17年7月、青年海外協力隊員としてジャマイカに赴任。19年7月、帰国。

活動概要

ジャマイカ・ウエストモアランド教区事務所にて、防災・災害対策として主に以下の活動を実施。

- 各地域コミュニティへの防災教育及び災害対策支援
- 災害頻発地域における避難訓練の実施
- 地域ハザードマップの作成及び災害予測分析
- 他教区やさまざまな組織と連携した防災・災害対策支援体制の確立



話
まつぶりょう
松葉亮さん
(ジャマイカ・2017年度1次隊)

Q メインの活動は？

活動の種類及び移動範囲が広いのがこの職種の特徴ですが、私は「防災教育」と「ハザードマップ作成」をメインに活動しました。

防災教育は、対面でのプレゼンテーションに留まらず、任地の人々や生徒たちに興味を持ってもらえるよう、住民参加型にしたり、東日本大震災の経験を伝えるときには映像や音で伝えたりする工夫を行いました。

ハザードマップは、避難所検査と並行し、写真撮影やGPSポイントの採取などを行い、作成しました。活動地域である教区内100カ所以上を訪れ、作成したハザードマップを使用し、地域住民への避難所周知、管理担当者の連絡先及び災害時の初動マニュアルの共有ができました。

Q 活動の最大の困難は？

任地には経済的な事情で不安定な暮らしを強いられている人もいます。そのような中で未来のことを考える「防災」への意識付けをしてもらうことが、最大の困難でした。1つの事例として、活動初期にいくつかの学校などの避難所に備蓄機材を導入したのですが、しばらくして確認に行くと建物ごと破壊され、物品が全て盗まれていたことがありました。このことをきっかけに、活動が単なる押し付けにならないかを考えるようになりました。

Q メインの活動は？

現地の整備士の技術力向上のための指導や出張修理の導入と促進です。現地の整備士の育成の際には、故障診断や修理の指導をマンツーマンで行いました。ウガンダと日本とで整備の方法が異なる場合には、両方のやり方を実践し、現地の整備士がより良いと思う方法を選んでいました。

出張修理の導入と促進では、約1年半、指導先の整備士と共に農家を訪問し、その場で修理を行うことを継続しました。これにより、農家が不具合のある機材を持って圃場と整備工場を往復する時間や手間がなくなり、整備士の顧客数の増加やモチベーションの向上にもつながりました。以上のことから、整備士の知識や技術、経験値が向上し、出張修理が導入され定着したことで、農家と整備士の関係も深まり、農家が効率的かつ円滑に農作業ができるようになりました。

Q 活動での困難は？

いざ出張修理の導入を始めると、出張先での工具の不足という困難に直面することがありました。出張修理では、農家の方から直接、もしくは電話で修理の依頼を受け、バイクで現場まで駆け付けます。その際、全ての工具を持って行くことは不可能のため、必要になりそうな工具を予測し、持って行くことになりました。このため、修理

Q どう解決しましたか？

ちょうどその頃、ハリケーンによる首都退避や任地の国家非常事態宣言発令により、各地域に足を運ぶことが減っていました。このことも備蓄機材盗難の原因の1つだと考えました。

そこで意識的に各地域に足を運ぶ回数を増やすようにし、それが難しいときは電話をしたり、ジャマイカの人々が好きなボイスメールを頻繁に送ったり、とにかくコミュニケーションを取ることを意識しました。これを超えるうちに現地の人から問題点を少しずつ拾えるようになり、地域の協力者との連絡体制や見回り体制の話し合いに繋がっていくことができました。

Q 派遣予定の同職種の隊員にメッセージをお願いします。

目の前の子どもたちと一緒に防災を学ぶミクロな活動から、多くの人と協働し地域全体の仕組みづくりに携わるマクロな活動まで、とにかく業務範囲が広く、多岐に渡り活動できるのがこの職種の魅力だと思います。また、1人でガッツガツ開拓していくというよりは、行政などの大きな組織の一員として組織内外のさまざまな人々と協働していく職種です。多くの人と触れ合い、さまざまな意見を交わし、物事を動かしていく経験は、任期終了後にどのような仕事をする場合にも、必ず役に立つと思います。

Q どう解決しましたか？

出張修理を2人体制で行うようにしました。1人が主に修理を行い、もう1人がサポートや不足している工具を取りに行くことで、時間のロスを大幅に削減することができました。

Q 同職種の後輩隊員にメッセージをお願いします。

日本も参画しているCARD^{※1}フェーズ2では、サブ・サハラ・アフリカ地域でのコメの生産量を2030年までに2800万トンから5600万トンまで倍増させるという目標が掲げられています。現地の稲作農家の収量はいまだに低い状況ですが、収量が増加した際には、適切な農業機械の導入による、新たな農地拡大が不可欠です。農業機械の普及には「農業機械導入の費用」「インフラ整備」「必要な部品が供給されない」など障壁が多くあります。これらの障壁に対して、私たち個人の力は小さいかもしれませんが、現地の方が私たち農業機械職種の隊員たちと行った農業機械整備は「技術」や「知識」といった形で国の発展に貢献してくれるはずで、現地の方との活動を楽しんでください。

※1 コメ振興プロジェクト…コメの生産量の増加や農家の所得向上に寄与するため、コメ関連研究機関における研究開発能力の強化や品質の向上などを支援する。
※2 CARD…アフリカ稲作振興のための共同体。Coalition for African Rice Developmentの頭文字をとったもの。JICAが国際NGOのアフリカ緑の革命のための同盟と共同で立ち上げた国際イニシアティブ。

活動に役立つアイデア

貯金の啓発

ナビゲーター = 小郷智子さん
(ルワンダ・コミュニティ開発・2016年度4次隊)

貯金講座を実施

活動していると、現地の人が「お金がないから、新しいことが始められないんだ」と話すのを聞く場面も多いかと思います。そこで、現地で実践した『貯金講座』を紹介します。

1 貯金講座のきっかけ

任地では新規ビジネスの立ち上げを提案したり、いろいろな相談にのったりしていましたが、人々がすぐ口にするのは「でもお金がないから……」というセリフ(※決してお金を無心している訳ではありません)。そこで、日々の小さなお金をコツコツ溜める「貯金」を指導してはどうかと思いつき、貯金講座を実施しました。

2 講義&ワークショップ形式で貯金講座を実施

1回限りの講座では「日本人に珍しいことを教えてもらった」「楽しかった」で終わってしまうので、工夫をしました。具体的には毎週1回、以下7ステップの流れで講座を実施しました。

STEP 1 ルールの共有

「最後の講座まで参加する」、「時間は守る」など、参加者とルールを共有する。きちんと講座を実施したいので、相手の本気度もしっかり確かめました。



青少年センターの子どもを対象にした貯金講座を行う小郷さん

STEP 2 現在の収支チェック

参加者が1週間の収支表を作成し、自分の収支をチェック。

STEP 3 貯金の目的・目標金額の設定

なぜお金が必要か、目標金額から逆算して、毎日いくら貯金していけばよいか、計算する。

STEP 4 ライフプランの設定

自分の将来の目標を設定し、そこに至るまでに必要な資金を計算する。

STEP 5 記録の付け方(通帳作成)

収支表のプリントを配布し、記入方法を指導する。

STEP 6 貯金箱作成

空きペットボトルを活用して自分の貯金箱をつくる。貯金箱には自分の名前、目標額を記載することで「自分のための貯金箱」という意識



つくった貯金箱

付けをし、モチベーションを高める。

STEP 7 定期チェック

全講座終了後も、週に1回参加者の貯金の進捗をチェック。

ただ単に「貯金は大切だよ」と伝えるだけではなく、①~④で「なぜ貯金をしたいのか」と

いう動機付けをしっかりと、⑤⑥でMy通帳・貯金箱をつくり、⑦で定期的に進捗を確認します。確認をしたときに、貯金を続けていたら褒めるということを積み重ねることで、「貯金を続けよう!」という行動に繋がるよう工夫をしました。



My貯金箱を手に持つ子どもたち

3 帰国後も継続して貰うための工夫

貯金講座を開始したころの対象者は、青少年センターの子どもたちでしたが、その後、教会、お店のオーナー、公共マイクロファイナンス機関の会員などに向けて講座を展開していきました。活動範囲を広げると同時に、私の帰国後も現地の人々で継続できるように以下のような工夫もしました。



ルワンダの公共マイクロファイナンス機関(SACCO)で講義を行う小郷さん

工夫 1 活動を引き継いでくれる候補者をアシスタントとして毎回同席してもらう。

工夫 2 講義の資料は最後にすべてまとめて、1冊のマニュアル本を作成し、引き継ぐ。

工夫 3 活動の経過、結果をカウンターパートにも定期的に報告する。

どのように活動を進めていったかの時系列での詳細については、「JICA海外協力隊の世界日記/最近の活動状況について~貯金講座開講中!」に複数回に渡って投稿していますので、関心がある方はこちらをご覧ください。



作成した貯金講座のマニュアル本



https://world-diary.jica.go.jp/ogotomoko/activity/post_8.php

知ったク情報

改善の方法③

ナビゲーター = 武藤 正さん(シニア海外ボランティア/ベトナム・品質管理・生産性向上・2016年度4次隊)
※派遣名称は派遣当時のものです。

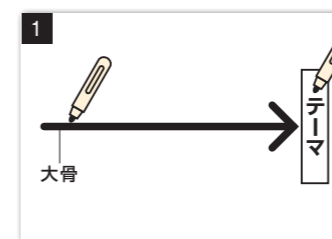
QC7つ道具の1つ「特性要因図」

今回はQC7つ道具(品質特性データを解析し、問題解決を行うための手法、QC=Quality Control)の1つ「特性要因図」という手法を使って改善を行う方法を紹介。特性要因図は、テーマ(問題や改善課題)について関係者全員で漏れのないようにいろいろな面から話し合い、視覚的に整理して、関係する重要な原因を発見し、問題解決・改善を効果的に行う方法です。構成要素を魚の骨のように整理することにより、テーマと原因の因果関係がわかりやすくなります。

特性要因図を作成するときは、関係者全員で多くの意見を出し、その意見を模造紙やホワイトボードに書いて視覚化し、内容を共有しながら行います。

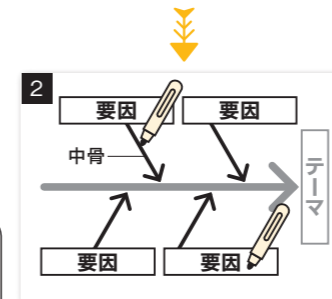
■特性要因図の作成手順

①紙の右側に「テーマ(問題や改善課題)」を具体的に書き、大骨を引く。

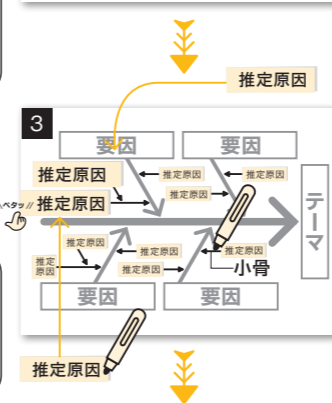


②大骨に向かって中骨を斜めに引き、各中骨の元に「要因」を書き込む。要因は製造業で使用するときは、一般的に以下の「4M」にわたる。

Man=人 Machine=機械
Material=材料
Method=方法

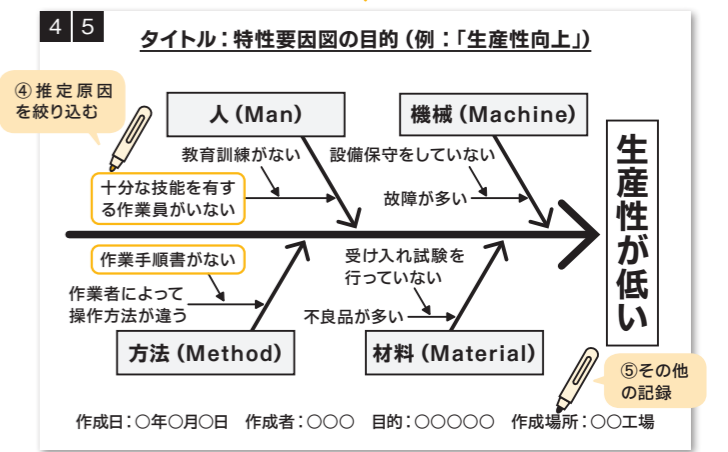


③中骨に向かって小骨を引き、各要因に関する「推定原因」を小骨の元に記入する。



製造業以外で利用する場合は、テーマを構成している要素を要因にするとい良いでしょう。【例】テーマ「イベントに人が集まらない」=「広報」「日程/場所」「人」「内容」「準備」など。

参加者各自が付箋に推定原因(事実をできるだけ具体的に)を書き、読みあげながら要因別に仕掛けて小骨に貼り付けていくという方法がお勧めです。

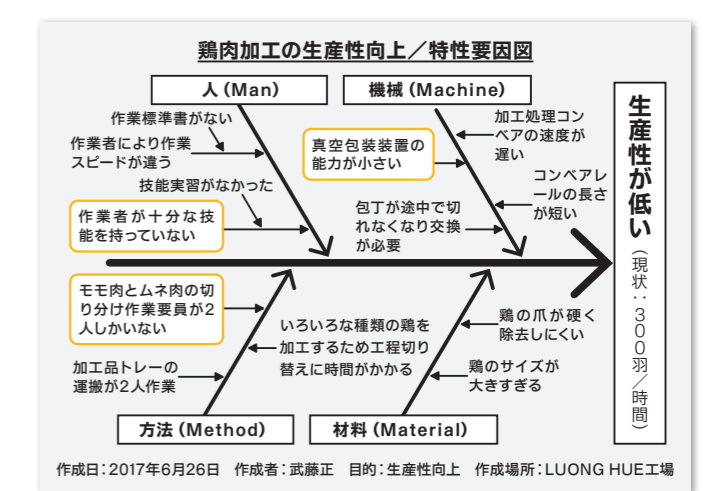


④全体の中から重要と考えられる推定原因を2~3つ選ぶ。④は「重要度」、「緊急度」、「費用」などを点数化し、総合評価すると選びやすいです。

⑤この「特性要因図」を作成した「目的」、「作成日」、「作成場所」、「作成者」を記入する。「手順④」で選んだ推定原因に関して、データ収集や、現状調査を行い、改善策を立案し、「なぜなぜ分析(9月号をご参照ください)」などを使って改善策を立案し、対策を行います。

■武藤さんの事例から

私がベトナムで指導した鶏肉加工会社で実際に作成した「特性要因図」を紹介。この「特性要因図」により生産性のボトルネックになっている工程(黄色の線で囲んだ部分)がわかり、それらを改善することにより生産性が向上しました。



JICA Volunteers!
before ▶ after 人生を変えた2年間

before
手芸用品メーカーの営業事務

after
防災関連団体の事務局員



左：メキシコで開催された「UNDRR（国連防災機関）Global Platform2017」でのARISE（民間企業グループ）の展示ブース 右上：2018年にモンゴルのウランバートルで開催されたアジア防災関係会議に参加したキルギス代表者（右）と小谷さん（左） 右下：仙台で開催された世界防災フォーラム2019に出展したJBPブース

小谷さんのプロフィール

一般社団法人
日本防災プラットフォーム（JBP）

設立：2014年6月4日
住所：東京都港区西新橋1-6-12
アイオス虎ノ門1006号

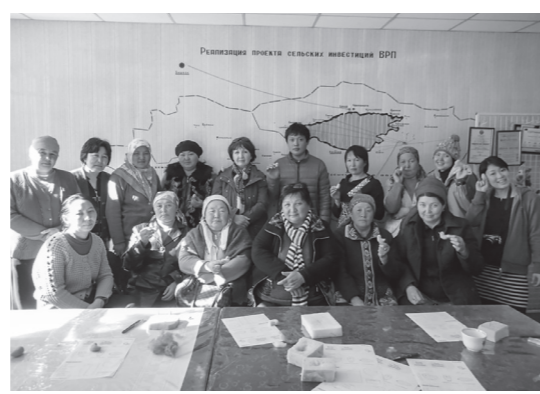
活動概要：民間主体、産官学連携の防災プラットフォームとして、世界の災害による被害を削減することに、企業が事業を通じて貢献することを推進する

URL: <https://www.bosai-jp.org/>

2017	2016	2014	2011	1988
after	JICA Volunteer	before		
4月、「一般社団法人「日本防災プラットフォーム」」に入社。	9月、帰国。	10月、青年海外協力隊に参加。キルギスのインククリ州カラオイ村にある地域組合エルアイウムに配属され、一村一品運動の推進活動として、新商品の開発と、品質の向上に携わる。フェルト商品の開発や、商品化に必要な作業用の仕様書、品質管理マニュアルの作成などを行う。	3月、津田塾大学学芸学部英文学科卒業後、手芸用品メーカーに就職。	埼玉県出身。

海外の仕事にも内定をもらっていたが、日本での職務スキル獲得を重要視したこと、また職場見学で人間関係の良い環境だと知ったことで、現職を選んだ。

協力隊への参加には「井戸を掘れるくらいの体力が必要なのでは？」と不安を感じていたが、募集説明会に参加して隊員経験者と話したことで、不安が解消され、応募に踏み切った。



キルギスで協力隊員として活動する小谷さん（後列右端）と、地域組合エルアイウムの女性たち

大切な人に防災技術を届ける

小谷さん・手芸・2014年度2次隊
小谷枝薫さん

「協力隊に参加したことで、自分自身の心の持ち方にも、人からの評価にも変化があり、以前より生きやすくなったと感じています。キルギスで活動した小谷さんはそう話す。

「協力隊参加前は就活に失敗し、人間関係で苦しみ、自信がなかったため、『働くことに向いていないんじゃないか』『日本社会に適応できない不適格者』と落ち込んでいました。でも、異文化の中で現地の人とぶつかりながらも乗り越えた経験が自信につながり、周囲からも良くも悪くも『協力隊に参加するくらい思い切りのある人』と思われるようになって、自分らしく過ごしやすくなりました」

国際協力は特別な人のもの

小谷さんが国際協力で興味を持ったのは大学時代。国際協力を学ぶ同級生の話に惹かれ、フィリピンの山奥にある集落を訪れたときだ。初めて触れた異文化での生活が刺激的だったことに加え、現地語を巧みに使い現地の人のために活動をする日本人を見て、国際協力が強い関心を抱いたという。とはいえ「国際協力は専門で学んだ人のもの」と進路として考えることはなく、卒業後は趣味の手

芸を生かし、手芸用品メーカーに就職した。しかし、就職先で人間関係に悩む日々が続く。人に相談しても、返ってきた答えは「仕事はみんな大変。石の上にも3年」。辛くても3年はがんばろう」と踏ん張り、その間にやりたいことを真剣に考えるようになる。心に浮かんだのは異文化での生活とそこで活動していた日本人の姿だ。協力隊に参加すれば異文化の中で生活でき、また手芸職種であれば貢献できることもあると感じ、協力隊に応募。3年間働いて退職し、キルギスで手芸隊員として活動することになった。

一村一品運動で手芸プロジェクトにかかわる地域組合の女性たちを対象に、製品の品質向上と新商品の開発の支援をする活動に取り組みことになった小谷さん。

「よく言えば素直」な女性たちとの関係づくりには苦労もありましたが、日本で悩んだことと比べればかわいいワガママだと思えることも（笑）。彼女たちとぶつかりながらも話し合っって活動を進めていきました」

「でも基本は気持ちの良い方たち」と現地でかかわった人たちのことを話す。シルクロードの交易地でもあったキルギスには、昔から旅人をもてなす文化がある。活動では考え方

で、世界の災害リスク削減に貢献している。「防災が自分には関係ないと言える人は世界中に誰もいません。国内で働いても、キルギスの人を含め世界中の人にかかわりがある仕事だと思い、現職を選びました」

現在は、法人運営にかかわる理事会や総会などの準備・開催に加え、会員企業・団体の防災技術を世界にアピールするJBPのウェブサイト運営、また、防災に関する二国間会議や国際会議などが開催される際は、会員企業・団体の発表とブース出展の調整などさまざまな業務に携わっている。

「昨年は、キルギスの防災・教育関係の政府職員が研修のために来日した際、民間企業セッションのアレンジにかかわることができました。この仕事をする中で、キルギスの防災にも何らかの形で貢献したいという思いがあったので、JBPの会員企業による防災技術のプレゼンテーションをアレンジでき、『この仕事をしていてよかった』と思いました」

新型コロナウイルス感染症が拡大する前は国際会議に参加するなど、海外に行く機会も多かった。そんな小谷さんの仕事振りを見ながら「海外でも落ち着いた対応ができるのは協力隊経験者だからなんだね。うちでも協力隊経験者を採用してみようかな」と伝えられたときは、「本当に嬉しく感じた」という。

国内外どちらで働くか悩んだ理由には、前職の経験から、日本で働くことにネガティブな印象があったことも関係している。しかし、隊員仲間から多種多様な職場の話を知ったことで「日本で働くこと＝不幸、ではない」と思えるようになった。そして、JICA進路相談カウンセラーと相談を重ね、今後のキャリア形成を考えた上で選んだのが、日本の団体「日本防災プラットフォーム（以下、JBP）」だ。JBPは、防災技術を保有する日本企業が集う会員団体で、優れた防災技術を国内外にビジネスを通して展開すること

「今後もキルギスファンのひとりとしてキルギスの魅力を伝え続けたいと思っています」

私生活ではキルギス情報の発信を続けている。隊員経験者が集まり、キルギスの楽器「コムズ」の演奏や、文化紹介と料理の提供をセットにしたイベントなども開催した。

よもやま話

「日本社会への復帰」や「進路開拓」、「協力隊経験の生かし方」など、協力隊員の「帰国後」について、O・B・O・Gに語り合ってもらいます。

コミュニケーション力の向上

C Aさんは社会人経験を経ずに協力隊に参加されたとのことですが、農業の実務経験がないがゆえの活動の苦労などはなかったのでしょうか。

A 現地の農家の方々は、すでに経験に基づいた野菜栽培の方法を知っていたので、やはり当初は「私に何が指導できるのだろうか」と自信を失いました。しかし、「互いに知っていることを教え合う」というスタンスでいくしかないという覚悟を決めたところ、人間関係もうまくいき、彼らが知らない土壌改良資材や害虫忌避剤のつくり方を伝えるといった活動を進めることができました。

B 私はAさんとは反対に、農業について前職で知識を蓄えていたがゆえに、当初、農家への指導にまずいってしまいました。「農業を使いすぎる」など彼らのやり方の「問題」ばかりがどうしても気になり、つい厳しい言い方で指摘をしてしまう。すると彼らの心は離れ、私のアドバイスに耳を傾けようとしなくなってしまう。相手の良いところにも目を向ける姿勢を持つことが必要だと気づき、それによって農家との関係が好転するまでには、半年ほどかかりました。そうした経験が、今の仕事で農家の方々とコミュニケーションを取るうえでの教訓となっています。

C 私も協力隊時代にBさんと同じような経験をしています。「2年間という限られた任期で、少しでもこの牧場をより良いものにしよう」という気負いがあったのだと思いますが、やはり着任当初、知らず知らずのうちに牧場のスタッフの「粗探し」に走ってしまい、空回りが続いてしまいました。例えば、牛の病

A 私は大学の学部で環境保全学を学び、大学院で植物の病原菌に関する研究をしました。協力隊では、主に十代の子が通う農業学校の生徒や、その学校の周辺の農家を対象に、野菜栽培の技術指導に取り組みました。帰国後は、地元のある宿泊研修施設で、自然体験学習を含む子どもたちのキャンプの運営に携わるなどした後、現在は県の児童相談所の一時保護所に転職し、貧困や虐待などにより保護された子どもたちの生活や学習をサポートする「児童指導員」として働いています。

B 私の大学での専攻は農業経済学で、遺伝子組換え農作物の流通について研究しました。卒業後は種苗会社に就職し、主に農業の営業に携わりました。協力隊では農業普及所に配属され、農家を相手に農業の適切な使い方や有機農業のつくり方を指導する活動などに取り組みました。帰国後は、私の派遣国とつながりがある地方自治体で復興支援員を務めた後、加工用のジャガイモの生産や調達を行う今の勤務先企業に就職しました。入社以来、ジャガイモの生産者を回って買い付ける仕事に携わっており、そこには品質を上げるための栽培指導なども含まれています。

C 大学は獣医学部で、獣医師の国家資格を取るために必要な勉強をしたほか、牛の体外受精の研究をしました。卒業後は、農業共済組合が運営する家畜診療所の獣医師として、主に家畜の牛の診療を担当しました。協力隊では公営の大規模牧場に配属され、肉牛の病気予防や生産性向上に関する技術を牧場のスタッフに伝える活動に取り組みました。帰国後は、家畜を専門とする個人経営の家畜診療所に獣医師として就職し、現在に至ります。

座談会参加者



Cさん(男性)

【派遣前】
家畜診療所の獣医師
【協力隊】
▶退職参加
▶獣医・衛生
・アジア
・2016年度派遣
▶公営牧場で肉牛の飼育に関する技術の指導に従事
【現在】
家畜診療所の獣医師

Bさん(男性)

【派遣前】
種苗会社勤務(営業職)
【協力隊】
▶退職参加
▶野菜栽培
・アジア
・2015年度派遣
▶農家への農業に関する技術の指導に従事
【現在】
食品会社勤務(営業職)

Aさん(女性)

【派遣前】
大学院生
【協力隊】
▶新卒参加
▶野菜栽培
・中南米
・2014年度派遣
▶農業学校の生徒などへの野菜栽培に関する技術の指導に従事
【現在】
県児童相談所の一時保護所の児童指導員

「掛け持ち」という生き方

B Aさんが帰国後に携わってこられたの、学生時代に学んだ「環境」や「農業」とは違う分野の仕事を選ばれてきたのは、協力隊時代に農業学校で指導した経験などが影響しているのでしょうか。

A 「教育」への関心は、協力隊に参加する前から持っていました。私の地元は自然が豊かな地域で、それを後世まで残す事に携わりたいと思います。大学では環境保全について学ぶことにしたのですが、学部時代、学生団体のメンバーとして小学生を対象とする環境教育に取り組み機会があり、そのなかで「教育」への関心が高まりました。その後、ご縁があって大学院では「環境」とも「教育」とも違う「農業」の方面に進んだものの、科学の研究はどうしても自分には合わないと感じました。協力隊に参加したのは、就職する前に今一度自分を見つめ直す時間が欲しいと思ったからです。

協力隊活動を通じ、自分の関心は「教育」と「地域づくり」にあると確認できたので、帰国後はこの2つをキーワードに仕事を選んできました。宿泊研修施設の仕事から現在の仕事に移ったのは、コロナによる影響でキャンプの実施がストップしてしまったこともありですが、キャンプに参加する子どもとのかかわりは一時的なものなので、同じ子どもにもっと長い時間寄り添うような仕事で、かつ、生きつらさを抱えた子どもを相手とする仕事をしたと考えたからです。生きつらさを抱えた子どもにも目が向くようになったのは、引きこもりになった身近な人を助けることができなかった経験がきっかけです。現在も仕事のかたわら、地元の自然学校で

子どもキャンプのボランティアとしてプログラムのサポートに加わるなど、「地域づくり」への参加も続けています。

B 私も復興支援員を務めていた際、生きつらさを抱えた子どもたちのフォロワーが地域の重要な課題の1つであることを知り、ぜひその解決に携わりたいと思うようになりました。しかし、教育の専門性を持たない私がその仕事で食っていくようになるのはとてもハードルが高いことだと感じ、自分の専門性が生かせる今の仕事に就きました。生きつらさを抱えた子どもたちのフォロワーに取り組みたいという気持ちは、今でも失っていません。仕事のかたわらでボランティア活動をされているというAさんのお話を伺い、私も「掛け持ち」の生き方でその実現に挑戦してみようという意欲が湧きました。

C 近江商人の「三方良し」の仕事訓は「売り手良し、買い手良し、世間良し」ですが、「社会貢献」に当たる「世間良し」を外で実現するという生き方ですね。自分の生活を維持しつつ、「社会の課題解決に携わりたい」という思いを実現するのは容易ではないと、私も感じています。私は協力隊に参加する時点で、帰国後の進路については考えることができていませんでした。今の職場に就職したのは、獣医師としての仕事と国際協力の仕事を両立させている協力隊の大先輩に勧めていただいたからだったのですが、「三方良し」という言葉も、その方に教えていただいたものです。私は今、地域の畜産に貢献しつつ、社会貢献や国際協力にも積極的にかかわっていくことを目標としながら仕事をしており、それが実現できるよう引き続き努めていきたいと考えています。

気を防ぐための方法で、彼らが知らなかったものを紹介しても、実践してもらえない。人手や予算の不足でそれを実践できない事情があったからなのですが、私はなかなかそれに気づくことができませんでした。私が提案しても、彼らは「わかりました」と言うばかりだったからです。やがて、実践できない事情があることが見えるようになると、「こういうやり方が理想だけど、あなたたちには今、それができないという事情がありますよね」などと言って、彼らを理解しようとしている姿勢を示すことを心がけるようになりました。するとようやく彼らは、「実は私もその理想を実現したいとは思っているのです」と心を開いて会話に応じてくれるようになり、実現可能な問題解決策を共に探っていくようになりました。そうした経験は、やはりBさんと同様、今の仕事につながっており、畜産農家の方々に病気の予防などに関するアドバイスをする際、それぞれ異なる事情や考え方があることを踏まえながら行うことができていると感じます。

A 相手の事情を理解しようとする姿勢は、私も協力隊時代に身に付いたと感じています。任地の人に約束を破られることがよくあり、当初は苛立ってばかりいたのですが、彼らは約束を破ることについて日本人とは違う価値観を持っていることなどが徐々にわかってきたからです。今の仕事でかわる一時保護施設の子ともたちは、ときに嘘をつきます。そうした際に、頭ごなしにとがめるのではなく、まずは「嘘をついた背景」を探り、解決すべき根本的な問題を突き止めようと努める。そうしたやり方を心がけることで、子どもたちと良い関係が築けているのは、協力隊経験があったからだろうと思います。

*1 復興支援員…東日本大震災の被災地公共団体が総務省の支援を受けて設置する、コミュニティの再興に向けた活動に取り組むポスト。
*2 農業共済組合…農家が組合員となり、自然災害で農作物や畜産物に発生した損害を補償する「農業災害補償制度」を運営する団体。

「派遣国」や「職種」など、何かしらの共通項を持つ協力隊経験者によって構成するOB・OG会を、シリーズでご紹介していきます。

青年海外協力隊 山口県OB会

会の目的

協力隊員として途上国で活動した経験を地域社会に還元するとともに、会員同士の交流を深める。



コロナ禍に入って開始した、山口県在住の外国人を対象とするフードパントリーの活動。NPO法人フードバンク山口や、公益財団法人山口県国際交流協会など、地域の他機関の協力を得て実施している

Outline

正式名称	青年海外協力隊 山口県OB会
設立時期	1976年4月
法人格	任意団体

Organization

代表者	山尾和宏 (インド・日本語教師・2010年度4次隊)
会員数	約100人
入会資格	山口県在住の協力隊経験者(県外に転出した後に加入を継続する意思を表明した人も含む)
会費	1000円/年

Management

最高意思決定機関	会員総会
会員総会の頻度	毎年3月に開催
役員会の頻度	半年ごとに定期開催 (その他、必要に応じて臨時開催)
会員・役員間の主な連絡手段	メーリングリスト・オンライン会議

Contact

問い合わせ窓口	nvalencia0522@gmail.com 090-4451-1454 https://www.facebook.com/exjocvyamaguchi https://blog.canpan.info/exjocvyg/
情報発信の手段	https://www.facebook.com/exjocvyamaguchi https://blog.canpan.info/exjocvyg/

山口県在住の協力隊経験者を中心に構成する当会が発足したのは1970年代半ば。「地域」をアイデンティティとした団体として、同県を成熟した多文化共生社会とすることを目的とした活動に力を入れている点が、当会の特長の1つだ。今年2月には、同県在住の外国人とかわる行政、自治会、NPO、企業などの人々を対象に、「外国人の受け入れ方」をテーマにしたセミナーを開催。留学生を受け入れている教育機関や技能実習生を受け入れている企業などから、その実情や課題について発表してもらった。

コロナ禍に入ってから、収入が減ってしまった同県在住の外国人を支援するため、食材を無料で配布する「フードパントリー」の活動も開始。「規格外」などの理由で商品として扱えなくなった食品などを企業や農家から譲り受け、支援を必要とする人々に提供する「フードバンク」の活動を行う県内のNPOとの協働である。この活動を同県在住の外国人に広く知ってもらえるよう、やさしい日本語を使って情報発信をする外国人向けのFacebookページも開設。台風の予報など生活に必要な情報を幅広く発信する場としている。

尾代表

タンザニアに初めて協力隊員が赴任したのは1967年。現在までの派遣人数は延べ1700人近くにのぼる。同国で活動した協力隊員を中心に構成する当会は、昭和40年代から令和までの幅広い隊次の協力隊経験者が会員となっているが、協力隊経験者以外にも門戸を開いており、大使館やJICA、商社などの関係者でタンザニアにかかわりを持つ人、さらには在日タンザニア人など幅広い人々が参加している。

これまでの活動の柱の1つとしてきたのは、タンザニアに関する情報の会員間での共有、および外部への発信だ。具体的には、協力隊員としてタンザニアで活動している/していた人の寄稿を主な内容とする会報の発行(年2回)、国際協力イベントでのブースの出展などである。今年8月には、コロナ禍によりタンザニアからの一時帰国を余儀なくされた協力隊員たちを主な対象に、今後の進路について情報を提供する目的のオンラインセミナーを2度にわたり開催。「看護職」「開発コンサルティング会社」「国際協力NGO」「民間企業」など各種業界で働く会員たちが、進路開拓に関する受講者からの悩み相談に応じた。

尾代表



2019年に開かれた「協力隊まつり」で集まった当会会員

ワスワヒリの会

会の目的

タンザニアとのつながりや協力隊経験をベースに、「情報×仲間」を提供するプラットフォーム。タンザニアやタンザニア隊員に関する情報の共有・発信を発展させるとともに、日本とスワヒリ文化圏との交流により相互理解を深め、両地域の発展に寄与する。

Outline

正式名称	ワスワヒリの会
設立時期	1980年代後半
法人格	任意団体

Organization

代表者	部 佳恵 (タンザニア・村落開発普及員・2008年度3次隊)
会員数	約130人(会費納入者の数)
入会資格	協力隊員としてタンザニアで活動した人、スワヒリ文化圏とかかわりを持つ人、スワヒリ文化圏の自然や社会に興味を持つ人、在日スワヒリ人など、スワヒリ文化を愛する人なら誰でも可
会費	2000円/年(初年度は無料)

Management

最高意思決定機関	会員総会
会員総会の頻度	毎年6月に開催
役員会の頻度	不定期
会員・役員間の主な連絡手段	メーリングリスト・オンライン会議

Contact

問い合わせ窓口	waswahilinoikai@gmail.com https://www.facebook.com/wasuwhirinokai
情報発信の手段	https://www.facebook.com/wasuwhirinokai

先輩隊員の シューカツ記

先輩隊員たちが振り返る
就職活動の記録。

今月の業種：
民間企業（通信業）

就職先：

株式会社日本デジコム

事業概要：衛星電話・衛星通信のプロバイダーとして、衛星通信サービスの提供、衛星通信機器の販売・レンタル、衛星通信を活用した各種ソリューションの提供などを行う

略歴

- 2017年3月、広島大学卒業。
- 2017年6月、青年海外協力隊員としてカメルーンに赴任。小学校などで環境教育に携わる。
- 2019年6月、帰国。
- 2020年4月、衛星電話を取り扱う会社、株式会社日本デジコムに就職。主にウェブマーケティングを担当。

隊員時代の活動を教えてください



カメルーンで学校の生徒たちと環境について話し合う平田さん

カメルーンのエポロワ市にある初等教育省に配属され、小学校での環境教育や地域住民に向けた啓発活動を行いました。小学校では環境問題や自然に関する授業を実施。また、地域住民への啓発活動として市役所や環境省と協働し、ゴミ拾い活動などを行いました。

今月の先輩隊員：平田 萌さん

出身地：広島県

職種：環境教育

生まれた年：1995年

派遣国：カメルーン

帰国時年齢：24歳

隊次：2017年度1次隊

子どもの頃なりたかった職業：小説家

現在の業務では主にウェブマーケティングを担当し、自社ウェブサイトのSEO対策（検索をしたときに上位に表示されるための手法）、SNS運用、YouTube配信、オンラインショップ開設などを行っています。

「日本デジコム」ウェブサイト

▶ <https://www.jdc.ne.jp/>

このやり方はよかったと思えるところは？

私は就職先の業種にこだわりがなかったので「自分がその会社で何ができるか」という点にフォーカスして仕事を探したことがよかったと思います。それをもとにいくつか条件を設定することで、応募先の選択肢が絞られ、ひとつひとつの求人情報に丁寧に向き合うことができました。

協力隊経験を書類にどう書きましたか？

自己PRに協力隊の活動をとおして得た強みを、職務経歴書には活動の詳細や成果を記しました。隊員として多くの人とかかわりながら活動を進めた具体的な事例と、その中で得た探求力と柔軟性を伝えました。

現在の就職先に決めた理由は？

自分の裁量で仕事を進められそんな自由な風土を感じたため。

仕事で協力隊経験が生かされているところは？

計画・目標を立てゼロから企画を進める力と、多少波風を立てても（笑）ひるむことなく自分の意見を伝える力が、生かされていると感じます。

仕事のやりがいを教えてください

ウェブマーケティングは新規事業で、最初に「SNSをしたい」「広告を出すか検討したい」などのお話だけをいただき、その先はほぼ一任された状態でした。手探りの部分もありますが、何でも試せる環境で勉強しながら業務への取り組み方を模索していく過程は楽しいと感じています。

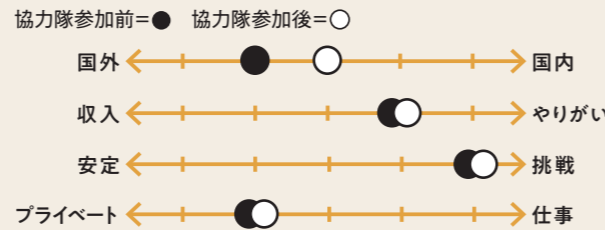
今後の抱負をお願いします

まずはマーケティングに対する考えを理解したうえで試行錯誤を重ね、自分なりの手法を確立させたいです。1つのスキルとして語れるように実績も残さなければと考えています。長い目で見れば「アフリカでのビジネスにかかわる」ことが目標なので、そのアンテナも張りつつ、目の前の業務を将来にどう生かすかを考えて仕事に取り組んでいきたいです。

自己分析

強み	行動力、自発的に動く力
弱み	職務経験がないこと
有する資格	DELFB2
有する経験	協力隊で培った0から1を生み出す経験

仕事選びの今昔。重視したのは？



仕事選びで特に大切にされたことは？

お金の流れを学び、販促力・企画力を身に付けられること。英語、フランス語などの語学を使う機会があること。

就活をとおして一番苦労したことは？

協力隊経験を自分の中でどう落とし込み、周りの人にどう伝えるか。そのうえで、漠然とやりたいと思っていることをどう具体化させていくか。それらを確立するまでに時間がかかりました。カメルーン生活を通して、生活のために根気強く商売をする現地の人々のたくましさや、アフリカでのビジネスの可能性を感じ、自分もこうしたことにかかわりたいと考えました。しかし、即戦力が求められる現場に今の自分が身一つで行っても無力だろうとも思い、まずは「アフリカ」にこだわらず、ビジネス力や語学力を身に付けられる環境を選ぼうと決めました。

MESSAGE

協力隊活動の話はネタが尽きませんが、しっかり棚卸をして自分の中で整理ができればインパクトのある面白い話ができます。そこは協力隊の強みだと思うので自信を持って伝えてください。

シューカツREVIEW

自分の中で迷いがなくなったことが就職につながった。

応募した数…4社
書類選考通過…4社
内定した数…3社

内定

NOT GOOD WAY!

「本当にこの会社に入りたいのか」と迷いを持ったまま面接に行き、それが相手にも伝わってしまったことがあります。志望理由を明確にし、やりたいこととしっかり紐づけておくことが重要だと思いました。

2次試験（面接）

面接では、「志望動機」「協力隊活動で達成したこと・困難だったこと」「会社で成し遂げたいこと」などを聞かれた。協力隊での生活や活動の話を通して、タフさや自主性を伝えることができた。活動中は自分の弱みと向き合い、それによって成長できたと感じているので、振り返れば「弱み」もカバーする表現もできていたのだと思う。

GOOD WAY!

協力隊で得た強みをアピールするだけでなく、それが仕事においてどう生かせるか言及したのはよかったです。協力隊をひとつの仕事、経験として存分にアピールしちゃってください！

応募開始（1次試験：書類）

応募書類は、履歴書、職務経歴書。志望動機には、企画力や渉外力、語学力を伸ばし、お金の流れやビジネスの仕組みを体感できる仕事をしたと記載。仕事に生かせる力として、探求力と柔軟性があることをアピールした。企業側は協力隊に対するイメージが湧かない場合が多いので、具体的な事例を伝えると興味を引きやすかった。

情報収集を開始

国際キャリア総合情報「PARTNER」、青年海外協力隊相談役、民間の人材紹介ウェブサイト、JICAの帰国隊員向け進路開拓セミナーを利用。「国際協力を携わりたい」という漠然とした思いを具体的にするため協力隊に参加し、その中でビジネスを通じた社会貢献に興味を持ち、これにかかわる仕事がしたいと思った。そのためにまずは自身がビジネス力を身に付ける仕事に就こうと就活を開始。だが、情報があすぎて何を基準に絞っていけば良いのかわからなかった。「仕事を通して何を身に付けたいか」を改めて考えることで、優先順位の高いものを条件に設定し直し、情報に躍らされず見極められるようになった。

GOOD WAY!

民間の人材紹介サイトは利用者が多く埋もれてしまう感じがしたので、私は途中で利用をやめました。自分に合わないと思ったら選択肢から外すのもありだと思います。

シューカツSTART

帰国
2カ月後

平田さんが見つけた衛星電話の利用方法の動画の一場面

帰国
9カ月後

帰国
5カ月半後

帰国
5カ月後

帰国
4カ月後



JICA 海外協力隊ウェブサイト「帰国隊員の進路開拓についての相談受付」
▶ https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor/

※進路相談の対象は、青年海外協力隊および日系社会青年海外協力隊経験者のみとなります。
※カウンセラー/相談役により対応可能な日が異なりますので、あらかじめ電話またはメールでのご連絡をお願いします。



写真提供：スペシャルオリンピックス日本

アブダビで行われた2019年スペシャルオリンピックス夏季世界大会の7人制ユニファイドサッカー（知的障害のある選手と障害のない選手が同じチームで競技を行う）の試合の様子。同大会には190の国と地域より約7500人の知的障害のあるアスリートが参加し、日本選手団は104人が参加した。24競技が実施され、日本は11競技に出場した

東郷さんが伝える

「ユニファイドスポーツ」の魅力！

ユニファイドスポーツは、知的障害のある人（アスリート）と知的障害のない人（パートナー）がチームメイトとなり、一緒にスポーツをする、スペシャルオリンピックス独自の取り組みです。私は協力隊での経験で「自分が知っている世界がすべてではない」と先入観を取り除いた自分に会いました。実はユニファイドスポーツもそんな先入観を取り除くスポーツです。パートナーがアスリートのサポートをするイメージした人もいますが、ユニファイドスポーツは、お互いがサポートしあい、得意分野

で協力していくもので、アスリートのコーチもいます。実施競技数もどんどん増えており、参加者も募集しています。



ユニファイドスポーツのシンボル「ユニファイドボール」を持つ東郷さん

JOCV SPORTS NEWS

平和・平等・協力・健康……「スポーツが持つ力」と自身の専門性を掛け合わせ、未来をつくりあげるJICA海外協力隊経験者たちの現在の活動・仕事を紹介します。

ス

ベシカルオリンピックスは1968年に、当時スポーツを楽しむ機会が少なかった知的障害のある人たちにスポーツを通じて社会参加を応援するため米国で設立された組織で、現在、世界200カ国で活動が行われている。その日本国内での活動を推進する「スペシャルオリンピックス日本（以下、SON）」で、協力隊経験者の東郷さんが働いている。

「SONの事業理念である、スポーツを通じて互いを理解しながら、より良い社会を構築していかうとすること、それは協力隊の活動にも通じるものがあると感じています。派遣国・ガーナでの経験から「人と人との交流に寄与する」ことを自分が働く軸にしたいと考え、SONに入職しました」

東郷さんは協力隊参加前、スポーツ中継に関連するソフト・ハードウェアサービスを提供する企業に勤務。その後、協力隊に参加し、ガーナの職業訓練校でICTの授業と同国教員の指導力向上を目標に活動した。

協力隊での経験を、「自分の知っていることが世界の全てではない。その場に行くと、人と交流して初めて知ることがたくさんあるということを目撃していた」と振り返る。ガーナの人はどんな生活をし、どんな考え方をするのか、共通点に喜び、違いを楽しんだ2年間だったという。

印象に残るのは、活動を計画通りに

より楽しい交流の機会を

「人と人とが交流することで生まれる新しい発見や可能性をとて面白く感じ、これにかかわる仕事がしたいと思いました」

帰国後、そう考えて就職活動をしていったときに出会ったのがSONだった。SONに関心を抱いた理由には、派遣前訓練での体験も影響している。訓練のひとつに知的障害のある人の施設での活動があり、そこで共に体を動かしたり歌を歌ったりすることで互いの距離を縮められる経験をした。一方で知的障害のある人と気軽に交流できる機会に限られていると感じた。SONのスポーツ事業にかかわることができれば、さまざまな人の相互理解や友情を深め、交流を促進する一助になれるのではないかと考えた。入職を決めた。

現在、東郷さんはSONの総務部総務課で働いており、各種会議の準備や関係団体との連絡調整、事務局内の管理業務、国際本部との連絡などの業務をメインに行っている。「総務の仕事我希望していたので、職員が働きやすい環境をつくることで、SONのスポーツ事業を円滑に進めるサポートができることにやりがいを感じる」と東郷さん。今後は総務の知識をより深め、団体に貢献したいと考えている。

東京オリンピックス・パラリンピックスの開催が予定されたことで、障害者スポーツの認知度は上がっているもの

実施できず、隊員としての存在意義がわからなくなって気持ちが沈んでいたころに、ホームステイ先のホストマザーとした雑談だ。「私には子どもが6人いてね」とホストマザーが話し始めた。東郷さんが家族全員を把握できていない時期で、「この間は5人と言っていたけど、また知らない子が増えたのかな」と思ったが、「長女はリオ（東郷さんの名前）だよ」と続いた。

「それを聞いて、活動で成果を出すことは大事だけれど、この人たちと親交を深め、理解し合うことも、私がかっこいい意味だと思いました」

その言葉で肩の荷がおりた東郷さんは、その後、活動も軌道に乗るようになった。停電時でもICT授業を実施する教材の提案や、同僚教員と協働した授業も実施。何より、ガーナでもう一つの家族を手に入れることができた。



ガーナの職業訓練校でICTの授業を行う、隊員時代の東郷さん

の、SONの活動分野である「知的障害のある人たちのスポーツ」の認知度はまだ高くないと感じている。

「パラリンピックスですか？」と聞かれることも多いです。スペシャルオリンピックスで行う大会は順位を決めるのではなく、全アスリートを称え全員を表彰するもの。また団体名の最後につく「s」は、日常のトレーニングから世界大会までさまざまなスポーツ活動を含むことを表しています。認知度向上は今後の課題だと感じています」

新型コロナウイルス感染症の影響でSONでもスポーツ活動をする機会の提供が困難な状況が続いていたが、10月から「オンラインマラソン」を開始した。参加者全員で総走行距離世界一周を目指す、知的障害のある人もない人も誰でも参加できるイベントだ。「国が違っても言葉がわからなくても一緒にできるのがスポーツ。現在は国内での活動が中心ですが、スペシャルオリンピックスは世界中に活動拠点があるので、今回のようにオンライン技術を活用し、国境を越えたイベントも開催できれば、より楽しい交流ができるのではないかと思います」

PROFILE ● とつとつ、りお

1990年生まれ。東京都出身。大学卒業後、スポーツ中継の情報テロップソフト・ハードを提供する民間企業に就職。2016年3月、青年海外協力隊員としてガーナに赴任。職業訓練校でICT授業を担当する。18年3月に帰国。一般社団法人に勤務後、19年11月より現職。

※詳細はスペシャルオリンピックス日本ウェブサイト「オンラインマラソン」をご覧ください▶<http://son-onlinemarathon2020.com/>

つぶやき

お題 ▶ お風呂



イラスト=牧野良幸



今月の1枚

天の恵み

雨期にはバケツをひっくり返したかのように雨が降る任地。外でシャンプーができるんじゃないかと何度も思いましたが、さすがに近所の目が気になり断念。我が家は断水していたので、待っていましたと家中のバケツや銅を外に出し、落ちてくる雨を貯めて、お風呂の水にしていました。そんな生活が恋しい今日この頃です。

ペンネーム：とよたろう さん（アフリカ・公衆衛生・2018年度派遣）

★ 快適バスタイム

私の派遣先ではシャワー・トイレがそれぞれの部屋の中にある家が多い。ホームステイ先でシャワーとかトイレとか気を使うな～と思っていたが心配ご無用!! 自室でシャワーもトイレも済ませることができた。歌を歌っても聞こえていない（多分）。帰国後の実家で家族のお風呂の順番待ち……あーめんどくさい。

ペンネーム：ハッピー野郎 さん
（アジア・日本語教育・2018年度派遣）

★ 冬になると思い出すもの

日本に戻ってきて懐かしいなと思うのが冬の水シャワー。派遣国ではソーラーでお湯をつくるが、冬はなかなか太陽さんが顔を出してくれない。だから、寒い中での水シャワーになる。服を脱がずに頭を洗い、そのあと体を気合いで洗う。でも不思議と、洗った後は体がポカポカになる。人間の体ってすごいな、と冬が近い今、思い出す。

ペンネーム：雪国の人 さん
（アジア・小学校教育・2018年度派遣）

★★★ バケツで足湯

年中暑い派遣国。人々はお風呂につからずシャワーで済ませる。自分はどうしても日本のお風呂が恋しくて、バケツにお湯を入れて足湯をしたこともある。また、頻繁に起こる断水で、数日間水が出ず、何日もペットボトルでシャワーをしたことも。そんなことを思い出しながら入るお風呂は、日本に戻って一番幸せを感じる時間だ。

ペンネーム：さかなくん さん
（中南米・音楽・2018年度派遣）

募集中のお題

「食器洗い」「ゲーム」「味付け」

投稿は『クロスロード』編集室まで
（P35をご覧ください）

あなたのつぶやきが
イラストになるかも!?

JOCの山下会長が隊員に向けて講演

JICAでは、SDGsに関連した各分野で現在活躍中の講師たちから国内外での取り組みを学ぶことで、隊員をはじめとするJICA関係者が今後の活動やキャリアデザインの参考などに役立ててもらおうことを目的に、「SDGs Webセミナーシリーズ」を開催しています。

全17回のうち、4回目となる8月27日には、日本オリンピック委員会(JOC)の山下泰裕会長を講師に迎え、「スポーツ(柔道)を通じた国際交流」をテーマに講演いただきました。このオンラインセミナーに132人の現役隊員と隊員経験者が参加しました。

山下会長は、選手時代の経験、ご自身で立ち上げられたNPO法人「柔道教育ソリダリティ」での開発途上国への柔道支援、韓国・中華人民共和国・ロシアとの国際交流などの活動、それらの経験を通じて考えたスポーツの価値についてお話をされました。隊員からは、協力隊活動への期待や任地での指導上の悩みなど多くの質問が寄せら



オンラインセミナーで
隊員たちの質問に答える
山下会長

れ、山下会長がそれぞれの質問に対し回答されました。「海外協力隊で直面した困難が今後の人生の血肉になる」、「指導する相手に対して上から目線で接してはいけない。同じ目線に立ち、自身が持っている技術などを出し惜しみせず、一緒に学ぶという気持ちで接し、信頼関係をまず構築することが大切である」、「スポーツには相互理解・尊敬・友情をもたらす力があり、新型コロナウイルスの影響で離れ離れとなった社会をつなげ、人々にも希望をもたらすことができる」など、今後の参考となる回答をいただきました。

さらに、山下会長から激励の言葉をいただくなど、隊員たちが今後の活動を続けていく活力を得られるようなセミナーとなりました。

ウェブサイトにも新コンテンツ 「隊員たちのイマ」を公開

JICA海外協力隊ウェブサイトにも、新型コロナウイルス感染症の拡大により日本へ一時帰国している隊員の活動を紹介



松田さんが紹介されている新コンテンツの一部

する新コンテンツ「隊員たちのイマ」を公開しました。

第1号は、松田智子さん(日系社会青年海外協力隊・ブラジル・日本語教育・2019年度1次隊)です。一時帰国中の現在は、コロナ禍によって来日予定が白紙になった5人のベトナム人を対象に、オンライン授業で日本語を教える活動をしています。コロナ禍でも頑張る隊員たちの現況を随時発信しますので、ぜひご覧ください。

▶ JICA海外協力隊ウェブサイト「隊員たちのイマ」

<https://www.jica.go.jp/volunteer/today/01/>

ラオスから一時帰国中の隊員が企画 「ら」おす「お」おさか「す」っきゃねん!展

10月4日、一時帰国中の隊員が中心となり、ラオスの魅力を伝えるトークショーを、大阪・堺市国際交流プラザとオンラインの双方を使って開催しました(共催: JICA関西、堺市)。



会場にいる登壇者は1人
他の登壇者はオンラインで参加

多民族国家であるラオスは、地域によって民族衣装や生活様式、食べ物などが異なります。そこで北部・中部・南部地域で生活していた隊員3人が、各地域の魅力を約30人の参加者に紹介しました。また、日本に留学しているラオス人が参加するパネルトークも実施。ラオスの教育や進学事情、暮らしについて、ラオス人と隊員たちが話し合いました。現地で生活をしたからこそ発せられるリアルな体験談を聞いた参加者からは、「これまで知らなかったラオスの魅力を知ることができた」という声が寄せられました。

クロスロード

令和2年11月号【第56巻第10号 通巻662号】
発行日 令和2年11月1日

編集・発行：
独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1
竹橋合同ビル

『クロスロード』ウェブ版は
以下のアドレスからアクセスできます。
<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/index.html>



ご意見・ご感想をお聞かせください。 アイデアも大募集!

今号をお読みになり、どのようにお感じになりましたか。ご感想・ご意見をお寄せください。また、今後取り上げてほしい企画や特集のテーマ、ご紹介いただけるアイデアがございましたら、下記のメールアドレスにお送りください。



一般社団法人協力隊を育てる会『クロスロード』編集室
crossroads@sojocv.or.jp



以下のようなアイデア・ 投稿を募集中です

- 派遣国での活動・生活での「失敗」談、お聞かせください。
- 活動や日常でちょっと役立つ、そんな技をお伝えください。もしくはこんな技を紹介してほしいというご要望もお待ちしております。
- P34の下に記載されている「お題」で派遣国での活動・生活のことをつぶやいてみませんか。
- 日本でつくれる派遣国レシピをお寄せください。

隊員めし

おかわり!

日本でつくる現地の「めし」は活力の源



隊員's ポイント!
ジャガイモは煮崩れるまで火を通すとトロみがつく!

コロンビアのスープである「アヒアコ」は、日本で言うならばカレーのような定番料理で、味は鶏肉とジャガイモのクリームシチューといった感じです。コロンビアには何種類かスープがありますが、どれもおいしく、現地ではホームステイ先のファミリーがつくってくれました。基本的に材料を入れて煮込むだけなので難しいことはありません。材料はあくまでベースなので、お好みでアレンジを。日本にある材料で簡単に作る事ができるので、ぜひお試しください。

一時帰国中に、青年海外協力隊大阪府OB・OG会さんから「派遣国のレシピ本作成(※)」の話聞き、すぐに参加させてほしいとコンタクトを取りました。アヒアコもレシピ本に掲載予定です。他の派遣国のレシピの試作もさせてもらい、知らない食材や料理がたくさんあり、レシピ本によって楽しく貴重な経験ができました。

※詳細は4ページをご覧ください。



今月の料理人

あさいけんじ
浅井康博さん
(コロンビア・料理・2018年度2次隊)
●活動内容：地元食材を活用した創作料理及び日本料理のアイデアレシピの提供を行う。

鶏肉とジャガイモのスープ コロンビアの「アヒアコ」

材料(4人分)

- 鶏むね肉…400g
- ジャガイモ…10個
- トウモロコシ…1本
- 長ネギ…1/2本
- ニンニク…1片
- パクチー…1束
- 塩…5g
- コンソメ…5g
- アボカド、ケッパー、生クリーム、ご飯…適量(※)
- ※お好みで。

作り方

- 鍋に水(1ℓ)、鶏肉、ネギ、ニンニク、パクチー、トウモロコシ(4〜5等分する)を入れて、弱火で20分茹でる。
- ジャガイモの皮をむき、一口大に切っておく。
- 鍋の鶏肉、ネギ、ニンニク、パクチー、トウモロコシを取り出し、ジャガイモを入れて弱火で30分煮る。

- 鶏肉が冷めたら、手で裂いておく。
- ジャガイモが煮崩れたら、塩、コンソメで味を整える。
- 好きな器に盛り付け、鶏肉、ネギ、パクチーをトッピングしたら完成。
- お好みでスープに、アボカド、ケッパー、生クリーム、ご飯を添える。

ひとくちメモ

個人的には、ジャガイモを倍量入れ、ドロっとするくらい煮崩れしたスープがおすすめ。



- 現地ではパクチーのほかにグアスカス(三つ葉やイタリアンパセリに似た味の香草)を使用する
- 鶏肉を手で裂いたもの。鶏皮は④のネギ、ニンニク、パクチーと一緒に細かく刻んでオリーブオイルに漬け、⑥でトッピング



今月号の表紙
ベナン



のなかかわり
文=野中香里さん
(コミュニティ開発・2016年度2次隊)

零細漁港の課題解決を支援する私の活動の第一歩は、漁師に漁網の繕い方を教わり、手伝うなどしながら、彼らのように漁港で働く人々に溶け込んでいくことでした。写真の男性は、漁網の繕い方を教えてくれた漁師の1人です。船がつくる日陰に座り、差し入れてくれた冷たいパイヤと一緒に食べ、語り合いながら、漁網を繕う。そんな日々が昨日のことのように思い出されず。穏やかに心地よい風が流れていました。 ※野中さんの活動の詳細は6〜7ページで紹介しています。